

2024 Vol.32

日本臨床細胞学会 近畿連合会会誌

The Journal of The Japanese Society of
Clinical Cytology, The Kinki Federation

第32号

2024年9月

日本臨床細胞学会近畿連合会

日臨細胞近畿連合会誌

日本臨床細胞学会 近畿連合会会誌



目 次

| | |
|---------|------------------------------------|
| 巻頭言 | 会長挨拶（日本臨床細胞学会近畿連合会会長 井上 健）……………1 |
| | 日本臨床細胞学会近畿連合会理事評議員（令和6～7年度）……………2 |
| 総説 | 口腔細胞診のperspective |
| | —口腔癌の早期診断に向けた多職種連携の重要性— 重岡 学……………3 |
| | 令和5年度日本臨床細胞学会近畿連合会評議員会議事録…………… 15 |
| | 令和5年度日本臨床細胞学会近畿連合会暫定理事会議事録…………… 16 |
| 各連携組織記録 | 大阪府…………… 17 |
| | 〃 京都府…………… 22 |
| | 〃 兵庫県…………… 25 |
| | 〃 奈良県…………… 28 |
| | 〃 和歌山県…………… 32 |
| | 〃 滋賀県…………… 39 |
| | 令和5年度収支決算報告…………… 43 |
| | 日本臨床細胞学会近畿連合会会則・推戴規程・投稿規定…………… 44 |
| 編集後記 | …………… 49 |

巻頭言
会長挨拶

ごあいさつ

日本臨床細胞学会近畿連合会会長
井上 健

まだまだ残暑厳しい日々が続いていますが、会員の皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染症も第5類感染症に移行し、各種学術集会運営も現地開催や、オンデマンド配信等の併用によるハイブリッド開催が主体となりコロナ前よりも参加者が多く、より活発になっている印象を受けます。昨年の第48回近畿連合会学術集会は河原邦光会長のもと2023年12月10日大阪市中央公会堂にて開催されましたが、バーチャルスライドを用いた体腔液ワークショップやスライドカンファレンスが会場参加者と発表者との双方向での対話形式で進められ、オンデマンドでの参加者と合わせ700名を超える参加者を迎え大変充実した学術集会となりました。また今年の2024年6月7日～9日には、森井英一大会長のもと大阪国際会議場にて第65回日本臨床細胞学会総会春期大会が開催され、全国から多数の参加者があり、大変印象的で実りある学術集会となりました。本年の第49回近畿連合会学術集会は、滋賀県の御担当で、高橋 健太郎先生のもと、2024年9月29日(日)ピアザ淡海(滋賀県立県民交流センター)にて開催されます。骨軟部腫瘍に関する特別講演、細胞形態像についての教育講演、細胞診と遺伝子診断に関するワークショップのほか、スライドカンファレンス、ランチョンセミナーなど大変充実した内容が予定されています。滋賀県臨床細胞学会のスタッフの皆様、その他関係の皆様には感謝申し上げます。

さて、今年も無事に第32号近畿連合会会誌を発刊するに至りました。編集委員の皆様方に感謝いたします。本号では、昨年の学術集会時に教育講演としてご講演いただいた神戸大学の重岡学先生の口腔細胞診に関する総説が掲載されています。大変美しい画像とともに充実した内容が掲載されていますので、ぜひご一読ください。

がんの早期発見や診断のほか、近年ではゲノム医療への応用など細胞診の役割はますます広がりがつつあり、その重要性は高まっています。近畿連合会会員の皆様のさらなるご活躍とご発展を祈念し、本会誌の巻頭言とさせていただきます。

日本臨床細胞学会近畿連合会令和6-7年度理事評議員 (2024.04.01~2026.03.31)

会 長 井上 健 (大阪府臨床細胞学会会長、大阪市立総合医療センター)
副会長 岸本 光夫 (京都臨床細胞学会会長、京都市立病院)
 鳥居 良貴 (兵庫県細胞検査士会会長、兵庫医科大学病院)

理 事 小笠原 利忠 (兵庫県臨床細胞学会会長、誠仁会大久保病院)
 小島 史好 (和歌山臨床細胞学会会長、和歌山県立医科大学)
 高橋 健太郎 (滋賀県臨床細胞学会会長、昴会日野記念病院)
 吉澤 明彦 (奈良県臨床細胞学会会長、奈良県立医科大学)
 竹腰 友博 (京都府細胞検査士会会長、京都市立病院)
 田中 真理 (和歌山県細胞検査士会会長、和歌山労災病院)
 棚田 諭 (大阪府細胞検査士会会長、大阪国際がんセンター)
 西川 武 (奈良県細胞検査士会会長、天理大学)
 山内 盛正 (滋賀県細胞検査士会会長、長浜赤十字病院)
 豊田 進司 (理事会推薦理事、奈良県総合医療センター)
 森井 英一 (理事会推薦理事、大阪大学)
 若狭 朋子 (理事会推薦理事、近畿大学奈良病院)
 内山 勲 (理事会推薦理事、大阪市立総合医療センター)
 塚本 龍子 (理事会推薦理事、神戸大学医学部附属病院)
 布引 治 (理事会推薦理事、神戸常盤大学)

| 評議員 (医師) | | (技師) | |
|----------|-----------------------|--------------------------|--|
| 大阪府 | 市村 友季 (大阪市立総合医療センター) | 青木 弘 (大阪警察病院) | |
| | 孝橋 賢一 (大阪公立大学) | 田口 雅子 (近畿中央呼吸器センター) | |
| | 桜井 孝規 (大阪赤十字病院) | 三村 明弘 (PCL大阪ラボ) | |
| | 藤田 茂樹 (住友病院) | 矢野 恵子 (関西医療大学) | |
| | 安原 裕美子 (堺市立総合医療センター) | 横田 裕香 (大阪市立総合医療センター) | |
| 兵庫県 | 伊藤 智雄 (神戸大学) | 上岡 英樹 (JCHO神戸中央病院) | |
| | 河原 邦光 (神戸大学) | 川嶋 雅也 (兵庫県臨床検査研究所) | |
| | 杉原 綾子 (信和会明和病院) | 真田 浩一 (兵庫県立尼崎総合医療センター) | |
| | 廣川 満良 (神甲会隈病院) | 山下 展弘 (神戸市立医療センター西市民病院) | |
| 京都府 | 樋野 陽子 (京都第一赤十字病院) | 白波瀬 浩幸 (京都大学医学部附属病院) | |
| | 藤本 正数 (京都大学医学部附属病院) | 中川 有希子 (京都府立医科大学附属病院) | |
| | 森永 友紀子 (京都府立医科大学附属病院) | 山口 直則 (綾部市立病院) | |
| 奈良県 | 石田 英和 (奈良県総合医療センター) | 浦 雅彦 (近畿大学奈良病院) | |
| | 武田 麻衣子 (奈良県立医科大学) | 西浦 宏和 (大和高田市立病院) | |
| 和歌山県 | 今井 秀彰 (千徳会桜ヶ丘病院) | 稲垣 充也 (公立那賀病院) | |
| | 尾崎 敬 (公立紀南病院) | 真谷 亜衣子 (日本赤十字社和歌山医療センター) | |
| 滋賀県 | 太田 諒 (彦根市立病院) | 岩井 宗男 (滋賀医科大学医学部附属病院) | |
| | 馬場 正道 (済生会滋賀県病院) | 林 裕司 (滋賀医科大学医学部附属病院) | |

監 事 植田 政嗣 (畿央大学)
 矢羽田 一信 (畿央大学)

総務：豊田 進司、廣川 満良、岩井 宗男

会計：横田 裕香、布引 治

編集：三村 明弘、河原 邦光、小島 史好、桜井 孝規、馬場 正道、廣川 満良、岩井 宗男、
 白波瀬 浩幸、鳥居 良貴、布引 治、矢野 恵子

口腔細胞診のperspective

—口腔癌の早期診断に向けた多職種連携の重要性—

神戸大学大学院医学研究科 病理学講座 病理学分野

重岡 学

口腔癌は我が国において罹患率・死亡率の増加に歯止めがかからない。口腔癌は早期に発見されれば患者の生命予後の維持と良好な機能回復が期待できるが、多くの患者は進行した状態で高次医療機関を受診しており、たとえ治療が成功しても食事・会話・顔貌に大きな後遺症をきたし、quality of lifeが著しく低下する。このような背景から、効率的な口腔癌の早期発見・診断システムの構築に向けた歯科医療のパラダイムシフトが求められている。

2015年に本邦初となる口腔細胞診ガイドラインが示され、擦過細胞診は口腔粘膜に対する視診・触診の次のステップの検査法と位置付けられている。しかしながら、歯科と病理の間で口腔細胞診の正しい情報が共有されておらず、十分な普及には至っていない。口腔癌スクリーニングに細胞診を上手く活用するためには、臨床と病理の両部門が口腔扁平上皮の発癌過程における臨床病態や組織形態学的特徴を等しく認識し、ガイドラインの内容を踏まえた細胞採取と判定を実践することが重要となる。

本稿ではまず、口腔癌に関する知識を細胞診の実践に必要なトピックスに絞って提示する。次に、ガイドラインに基づく口腔擦過細胞診の判定や報告様式について概説する。加えて、神戸大学における取り組みを紹介し、歯科と病理の連携構築に向けたスキームについて考察する。本稿が臨床と病理の両部門にとって口腔擦過細胞診について理解を深める一助となれば幸いである。

Key word：口腔癌，早期診断，液状化検体細胞診，新報告様式，多職種連携，細胞診専門歯科医

1. 口腔がん早期発見の重要性

口腔に発生する悪性腫瘍（口腔がん）のほとんどが病理組織学的に扁平上皮癌（Squamous cell carcinoma：SCC [本稿では「口腔癌」と呼称する]）に分類される。その他の悪性腫瘍として悪性黒色腫・唾液腺癌・肉腫・悪性リンパ腫・口腔転移腫瘍などが挙げられるが、いずれも頻度は極めて低い。

我が国において、口腔がんは希少がんの1つとされているが、国立がん研究センターがん情報サービスによると、口腔がん（咽頭がんを含む）の罹患率・死亡率ともに年々増加している¹⁾。

口腔がんの男女比は、男：女=3：2と報告され、好発年齢は60歳以降とされている²⁾。したがって、喫煙や飲酒が最大のリスクファクターと考えられてきたが、若年女性の舌癌症例が目立ち始めた^{3),4)}。我が国の歯科医師の間でもadolescent and young adult (AYA)世代の口腔癌症例が問題視されている⁵⁾⁻⁷⁾。AYA世代は15-39歳の思春期および若年成人で、学生・就労・妊娠と出産・育児などライフステージが大きく変化する世代であることから、壮年・老年世代のがん診療にはみられない特徴や特有の課題が存在する。口腔病理診断を日常的に担当する筆者も、直近10年ほどの期間に若年女性の舌癌が目立つ傾向に気付いていた。したがって、これからの口腔がん医療においては、若年

者に口腔癌が発生する可能性に留意し日々の診療に臨むことが重要と考えられる。従来のリスクファクターとの関連性が乏しい若年性口腔癌の誘発因子はまだ明らかになっておらず、症例の蓄積が望まれる。

舌がんのステージ（病期）別の5年相対生存率をみると、早期症例とされるStage I, II例は治療成績が良好であるのに対し、進行した腫瘍径・所属リンパ節転移・遠隔転移を伴うStage III, IV例では予後は著しく不良である¹⁾【図1】。また、実際にはStage IVまで進行した状態で発見されている症例が多く、そのような症例の治癒率は著しく低い【図2】。

図1. 舌がんのStageと生存率

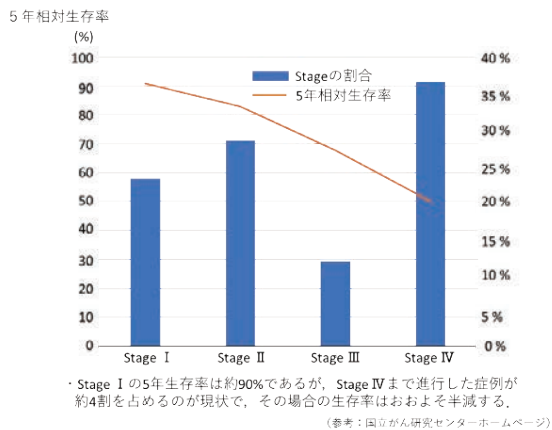


図2. 舌がんの生存率

| 病期 | 症例数 (件数) | 5年相対生存率 (%) |
|-----|----------|-------------|
| I | 340 | 90.9 |
| II | 417 | 83.0 |
| III | 172 | 67.7 |
| IV | 536 | 50.1 |
| 全症例 | 1,509 | 71.3 |

・ 舌癌の5年生存率は約70%
・ 進行期 (Stage III, IV) は予後不良

(引用：国立がん研究センターホームページ)

口腔がんの治療は、ほとんどの場合は手術が第一選択となるが、進行症例では、たとえ治療が成功しても顎顔面の広範切除と再建手術（切除による組織欠損部を身体他部位から皮膚・筋肉・骨などを移植し修復すること）により咀嚼・嚥下・会話・顔貌に大きな後遺症をきたすことから、社会復帰には高い壁がある【図3】。さらには、Stage IVで発見された場合は、Stage Iに比較し約10倍の医療費がかかると言われている⁸⁾。つまり、「口腔がんは早期発見・早期治療がすべて」である。しかしながら、現在我が国においてはそれが達成されているとは言い難い。

図3. 口腔癌治療（基本的には手術が第一選択）

早期に発見された症例



舌部分切除術（黄丸：病変） + 縫縮



舌部分切除術 + 吸収性縫合補強材の貼付

発見が遅れた症例



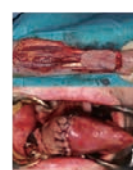
顔面皮膚切開



顎骨区域切除



頸部郭清



前腕皮弁を用いた再建術

なぜ口腔がんは早期に発見されないのか？それには様々な理由が考えられるが、ここでは「口腔がん早期発見のゲートキーパーは一般開業歯科医（General Practitioner：GP）である」ことを強調したい【図4】。一次医療機関での診査・検査が適切に実施されなければ、口腔がん患者が早期の段階で高次医療機関を受診することは望めない。定期的な口腔ケア・複数本の齲歯治療・義歯作製とメンテナンスなど継続的な口腔内処置を主体とする一般歯科治療は、口腔粘膜の定期的な観察の観点から、口腔がん早期発見において大きなアドバンテージがあると考えられる。日本歯科医師会は国民皆歯科検診の開始時期を3～5年後を目途に取り組みを進めていることから、GPや歯科衛生士が日常診療で口腔粘膜を観察し、早期の段階で異常に気付くことがより一層重要となってくる。

図4. 早期発見に一番近い位置にいる医療従事者は？

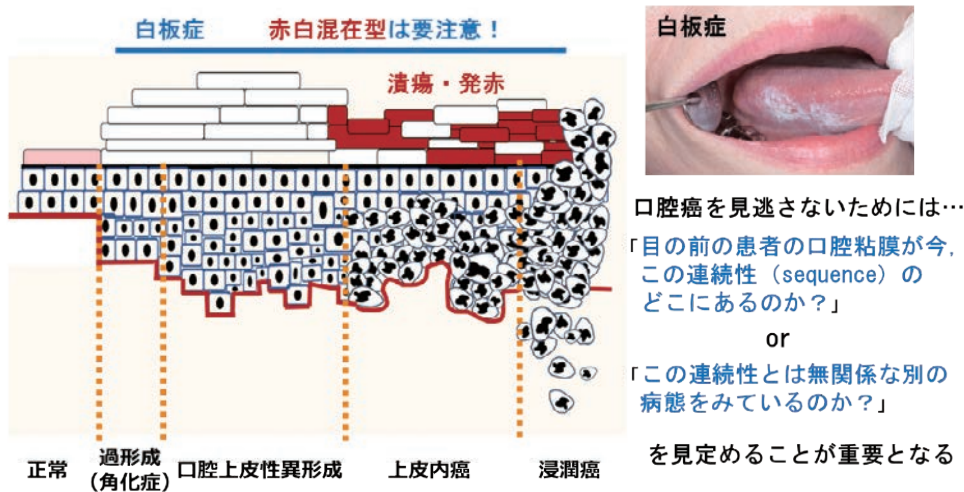


2. 口腔扁平上皮の発癌過程

口腔癌は原則*de novo*（先行病変を介さず、正常組織から直接発生）ではなく、健全な重層扁平上皮から前駆病変ないし前駆状態を経て発生する（*dysplasia-carcinoma sequence*）。口腔癌を見逃さないためには、「目の前の病変が今、*sequence*のどこにあるのか？*sequence*とは無関係な別の病態をみているのか？」を的確に見定めることが重要で、このことに病理診断が果たす役割は極めて大きい。

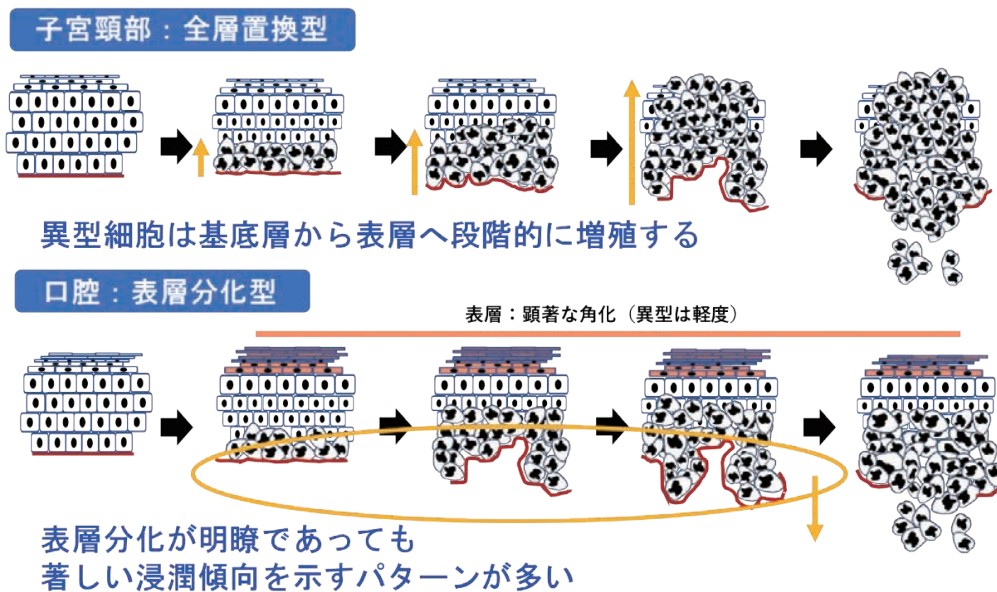
口腔癌の前駆病変ないし前駆状態（悪性化の可能性を有する病変）は口腔潜在的悪性疾患（*oral potentially malignant disorders: OPMDs*）と呼ばれる。OPMDsは「臨床的に明確な前駆病変か正常な口腔粘膜にかかわらず、口腔癌へ進展する危険性を有する臨床症状」と定義されており、病理組織学的な異形成の有無は問わない点に注意が必要である⁹⁾。我が国における最も代表的なものとして口腔白板症が挙げられる。口腔白板症は口腔粘膜でみられる他のいかなる疾患としても特徴づけられない白色病変の総称で、組織学的には過形成・異形成・上皮内癌・浸潤癌を包含する。したがって、口腔白板症が顕微鏡的診断名になることはない。治療方針の決定には、病理組織学的所見、つまりは上皮性異形成の存在とその程度が重要である【図5】。

図5. 「白板症」が病理診断名になることはない！



組織学的所見（上皮性異形成の存在とその程度）が重要

図6. 口腔扁平上皮の発癌パターンは特殊



口腔粘膜上皮に生じる異形成は「口腔上皮性異形成 (oral epithelial dysplasia: OED)」と呼称され、他の頭頸部領域の異形成とは区別される。OEDは「遺伝子変異の蓄積により引き起こされ、SCCに進展するリスクの増加を伴う上皮の構造学および細胞学的な一連の変化」と定義されている^{9) 10)}。

常に外部からの様々な刺激にさらされ軽微な炎症性修飾の加わる口腔扁平上皮は、子宮頸部とは異なり、従来のsequenceの考え方は適応できない¹⁰⁾。つまり、発癌過程と組織形態学的特徴が異なる。図6に子宮頸部と口腔の発癌パターンの違いを示す。子宮頸部扁平上皮の発癌過程は、基底層から表層側へ段階的に基底細胞に類似した異型細胞が増殖するパターン（全層置換型）を示す。これに対し口腔扁平上皮の発癌パターンは、深部で顕著な細胞異型と浸潤性格を示しつつ表層では分化傾向が保たれた状態で容易に浸潤癌へと進展するもの（表層分化型）が一般的である。

3. 口腔細胞診ガイドラインについて

一般歯科診療所では口腔がんの精査・治療は行われない。また、一般歯科診療所における生検は推奨されていない。腫瘍にメスで切り込んだ時点で腫瘍細胞播種や悪性度を助長するリスクが高まり^{11) 12)}、画像検査・切除範囲の設定に影響が出る。また、生検日は手

術日の規定因子とも考えられている。さらには、繰り返し検査を実施することは難しく、部位の設定にも熟練を要する。これらのことから、生検は口腔がん治療の一環として高次医療機関に所属する口腔外科専門医によって行われるべきとされている。したがって、GPが口腔粘膜病変に遭遇した際は、問診・視診・触診の基本診査によって鑑別を行い、高次医療機関への移行の必要性を検討することが求められる。

しかしながら、実際は基本診査のみで早期癌や前駆病変を正確に見抜くことは容易ではなく、口腔外科専門医でさえも良悪性の判断に迷う局面は少なくない。加えて、患者の理解と同意・エビデンスの観点からも口腔粘膜病変を客観的に診断するための簡便性とコスト面に優れた検査が望まれる。そこに当てはまるツールとして擦過細胞診が挙げられる。

口腔擦過細胞診（本稿では、便宜的に「口腔細胞診」の表記とする）は2015年に細胞診ガイドライン5 消化器（日本臨床細胞学会編）が発表され、口腔に特化したガイドラインが示されたことを機に、歯科医師の間でその有用性が見直され始めた¹³⁾。その後も細胞診専門歯科医（日本臨床細胞学会認定）を中心に診断基準や活用法に関する活発な議論が行われ、2022年に補遺版の追加を経て今もなお進化し続けている。

このガイドラインの特徴は、「液状化細胞診 (Liquid-based cytology; LBC)」と口腔扁平上皮の発癌過程に対応した「新報告様式」の2点にある【図7】。

図7. 口腔に特化した細胞診ガイドライン

Liquid Based Cytology :
液状化検体細胞診

- ・ 簡便かつ確実な採取法

新報告様式

- ・ 口腔に特化した判定法
- ・ 一般歯科診療所における活用を前提

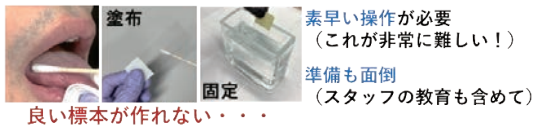


補遺版 2022年

LBCは採取した細胞を専用の保存液が入ったバイアルに回収し、細胞浮遊液として保存した後、特殊な機器を用いて塗抹標本を作製する手法である¹⁴⁾。従来法による口腔細胞診は廉価ではあるものの、歯科医師がチェアサイドで細胞採取後に間髪入れずにスライドガラス上に塗布しエタノールで固定する必要があり、病理に馴染みのない歯科医師にとっては非常に負担が大きく、歯科診療にほとんど導入されることは無かった【図8】。

図8. 歯科医に「従来法」は負担である

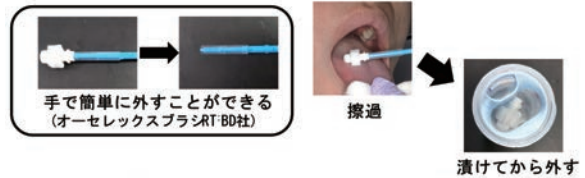
歯科医師がチェアサイドで標本を作製する必要がある



誤判定 or 不適切検体 (= 検査やり直し) に繋がる

これに対し、LBCは従来法に比してコストは若干高むが、歯科医師は擦過した細胞をバイアル内に攪拌するのみでガラスへの塗抹と固定が不要であるため、短いチェアタイムで良質な標本を確実に作製することが可能である【図9】。

図9. 歯科医師の擦過細胞診は、LBCの一択

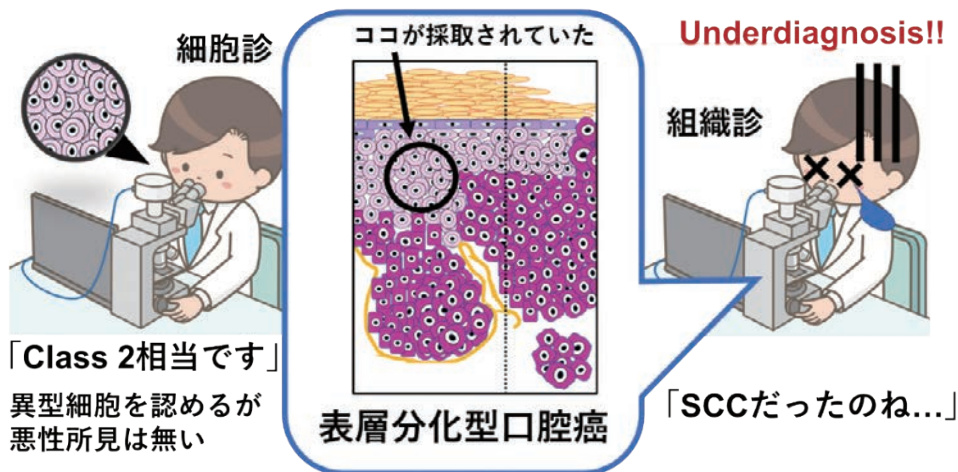


スライドガラスへの塗布・エタノール固定は不要

- ➡ チェアタイムはかなり短くて済む
- ➡ 判定ミス or 検体不適の可能性が劇的に下がる

新報告様式は口腔特有の表層分化型発癌パターンに対応した判定方法で、一般歯科診療所での活用を目的に策定されている。前述の如く口腔癌の発生や発育パターンは子宮頸部と大きく異なることから、子宮頸部で発展してきたClass分類を口腔細胞診にそのまま適応することは推奨されない。これまでClass 2と判定された症例に少なからず癌が含まれていたことやClass分類では炎症性異型と腫瘍性異型の区別に曖昧な点が多かったことが問題視されてきた【図10】。

図10. 従来の判定方法は口腔粘膜に不向き！



多くの口腔癌が Class 2と判断されてきた

図11. 新報告様式とその特徴

- (1) 検体不適正
 (2) 検体適正
 1) **NILM** : Negative for Intraepithelial Lesion or Malignancy
 2) **OLSIL** : Oral Low grade Squamous Intraepithelial Lesion or low-grade dysplasia
 3) **OHSIL** : Oral High grade Squamous Intraepithelial Lesion or high-grade dysplasia
 4) **SCC** : Squamous Cell Carcinoma
 5) **IFN** : Indefinite For Neoplasia

Point

- ・ SILについては子宮頸部と区別すべく Oralの'O'を頭に表記
- ・ **OLSIL以上が「細胞診陽性 (= 癌の可能性アリ!)」** を意味する
 ⇒ 「**OLSIL = Low-grade dysplasia以上**」
- ・ **開業歯科医が次にとるべき臨床対応の指針 (次の一手)** の提示

新報告様式はこれらの問題点を是正するために策定された。新報告様式は、まず提出された検体に対し適正/不適正を判定する。適正と判定されると、NILM/OLSIL/OHSIL/SCCの4段階に分類される [図11]。

良悪性の判断が困難な細胞像の場合はIFNと判定し、再検ないし組織診を推奨する (本区分の占める割合は、適正検体の10%以下が望ましいとされる)。筆者の施設では、原則IFNは使用しない。その他の上皮性 (腺系など) や非上皮性悪性腫瘍は、SCCとは別個に扱い、上記の区分は用いず、主に良/悪と推定診断を記載することになっている。

新報告様式の特徴として、1) 腫瘍性病変を見つけるという目的意識を明確にするためSILという名称が設けられた。口腔では、子宮頸部と区別すべく Oralの'O'を頭に表記する 2) OLSIL以上が細胞診陽性を意味する 3) 次にとるべき臨床対応の指針 (いわゆる「次の一手」) を提示するが挙げられる。各判定区分の細胞像を含めた詳細については、ガイドライン本文を参照されたい。

新報告様式においては、OLSIL以上が細胞診陽性を意味する。さらに強調すべきことは、OLSILと判定される症例に浸潤癌が含まれることである。これは、表層分化型の発育を示す口腔癌では、細胞診標本に出現する腫瘍細胞は異型の弱い高輝度の細胞が大部分を占め、SCCと判定できる細胞の出現頻度は少ないためである。

さらには、単に判定を付すだけでなく、臨床医が取るべき次の対応を診断報告書に付記することが推奨されている。ガイドラインでは、細胞判定がNILMであれば一般歯科診療所での加療、OLSIL、OHSIL、SCCであれば高次医療機関に紹介することが推奨されている。したがって、例えば、担当患者がOLSILと判定された場合、GPは癌の可能性が除外できないため、速やかに高次医療機関での精査を受ける必要があることを説明せねばならない [図12]。

図12. 「次の一手」とは？

新ガイドラインのコンセプト

表層分化型SCCを非浸潤性 (上皮内に限局した腫瘍) の段階で、歯科クリニックから病院歯科へ患者を移行することを目的としている

一般歯科診療所で開業医が細胞診

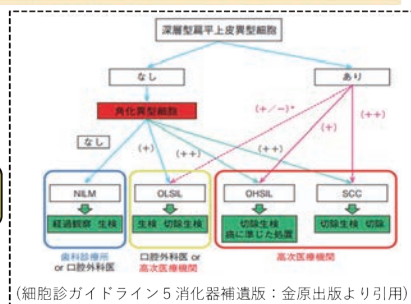


細胞検査士・細胞診専門医による
検鏡



病院歯科への紹介の判断材料

細かいことは、
病院歯科で判断してもらう

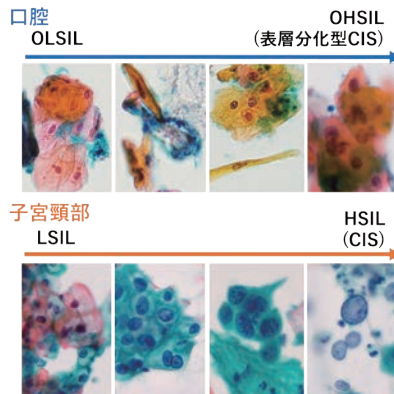


(細胞診ガイドライン5 消化器補遺版: 金原出版より引用)

図13. 口腔と子宮頸部の違い

子宮頸部の
ベセスダシステムとは異なる

- 1) 発癌過程が異なる
→ 角化細胞との戦い！
O'LSIL で SCCを拾う
(OLSIL = Low-grade dysp 以上)
- 2) 多彩な炎症性修飾が常に加わる
→ 「核腫大」のみで
OLSILと判定できない
- 3) 部位によって正常像が異なる



以上の如く、細胞検査士・細胞診専門医が病変を顕微鏡的に見て記録したものを「次の一手」と合わせて書面で提案することで、臨床医は患者に対し根拠のある説明が可能となり、信頼関係の構築が期待できる。

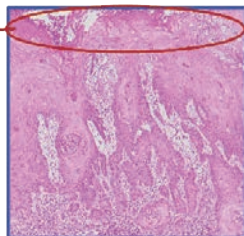
口腔と子宮頸部は同じ扁平上皮領域であるが発癌過程における組織形態像は大きく異なる。したがって、細胞診においても異なる視点から観察することが重要となる【図13】。

先述の如く、口腔癌の大部分は表層分化傾向が著しい症例であるため、擦過で採取される細胞は角化型かつ異型が軽度にとどまる。よって、口腔擦過細胞診においては「勝負の相手は角化細胞で、異型を積極的に指摘する」ことが肝要であり、子宮頸部と最も異なる点と言える。よって、SILの概念は口腔と子宮頸部の間で明確に区別されるべきであることを念頭に置かない限り、口腔細胞診の判定は困難を極める【図14】。

図14. 口腔擦過細胞診のポイント

口腔癌（特に早期）に対する擦過細胞診で採取される細胞は、「異型が弱い・角化がおかしい」「SCCと断定できる細胞が採取されることは少ない」

OLSILで癌の可能性を指摘し、高次医療機関での精査を誘導する
このことは口腔細胞診の適切な運用に極めて重要です！



4. 神戸大学の取り組み

ガイドラインが整備されて以降、GPは細胞診を新たな口腔がんスクリーニング検査として認識しつつあるが、少なくとも近畿地方においては十分に浸透して

いるとは言い難い。筆者はこれまで、様々な立場（病院歯科口腔外科医・口腔病理医・非常勤一般歯科診療医など）から口腔がんに関わってきたが、歯科臨床医の多くは病理診断学に苦手意識を持ち、病理部門でも歯科・口腔は馴染みのある分野とは言えず、特に口腔細胞診はその情報量の不足から両者にとって極めて近寄り難いものとなっていた。神戸大学では口腔外科と病理部門がガイドラインを共有することを準備とし、2021年から「口腔病理医／細胞診専門歯科医を中心とした口腔外科医と細胞検査士の協働」をスタートしている。

ここからは神戸大学における口腔細胞診に関する取り組みの一端を紹介する。臨床サイドにおいては、口腔外科学分野内に研究班を立ち上げ、依頼書の作成を見直すことに注力した。口腔粘膜は機能的に咀嚼粘膜・被覆粘膜・特殊粘膜に分類され、粘膜表層における角化の程度に差がある。つまり、正常口腔粘膜は部位によって擦過細胞診で回収される細胞の構成（オレンジG好性細胞とライトグリーン好性細胞の比率）が大きく異なる。正確な細胞判定を得るためには臨床医は依頼書に部位の詳細を記入しておくことが重要となる【図15】。

図15. 口腔粘膜にもいろいろありまして（機能的分類）



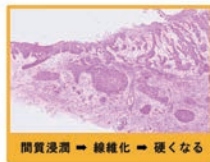
依頼書に採取部位が書かれていない場合は、**臨床医に問い合わせてください。**

また、臨床経過・現症・既往歴などの基本的な情報は重要であるが、口腔扁平上皮の良悪性鑑別の観点からは、口腔粘膜のターンオーバー期間である2週間を越えて治癒しない病変は腫瘍性変化を考える必要がある。さらには、硬結(しこり)の触知は癌細胞の増殖・浸潤に伴う線維化を示唆する所見として臨床サイドでは重要視される。よって、判定サイドは依頼書に目を通す際は、肉眼像に加えて「臨床医から悪性化を強く疑うメッセージが記載されているか」を十分に確認する必要がある [図16].

図16. 口腔粘膜の悪性化を疑う臨床所見

- ・赤みを伴う白板症
- ・2週間治らない口内炎
- ・硬結(硬いシコリ)

病理サイドは
依頼文に記載がないか
確認する!



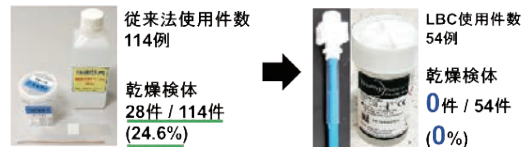
判定サイドにおいては、細胞診専門歯科医である筆者が中心となり、細胞検査士とのワークショップ型の勉強会を開始した。まずは、歯科医師のバックグラウンドや口腔癌の現状や鑑別が問題となる頻度の高い疾患について細胞診に必要な内容に絞って説明した。現在はこれらの座学型の研修を踏まえた体験型の研修として、我々自身が診断を付した口腔細胞診症例のう

ち、判定に苦慮した症例や細胞像と臨床経過・組織像との不一致や乖離を認める症例について、その原因や対策に加えて、患者背景や臨床情報との関連性について臨床医を交えて討議している。我々はこの過程において、正確な細胞判定には病変の性状(肉眼型・表面性状・細胞採取時の疼痛や出血の有無など)毎に採取手技を工夫する必要があると考えるに至った。そこで、当院の口腔細胞診症例については臨床医へのフィードバックを主たる目的に、診断報告書に採取された細胞量をコメントすることとしている [図17].

2013年~2022年に神戸大学病院口腔外科で擦過細胞診が実施された口腔扁平上皮性病変168例を対象とした後ろ向き調査では、従来法で細胞が採取された114例において細胞固定前の乾燥により判定に影響が出た症例が28例(24.6%)含まれていたのに対し、代表的なLBC法であるThinPrep®で採取された54例では0%であった [図18].

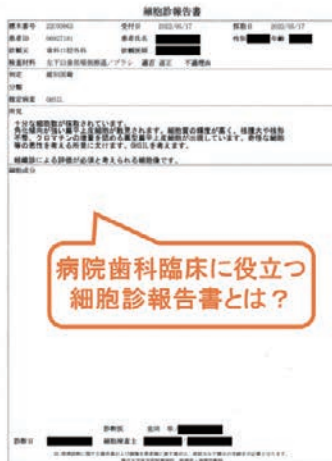
図18. 歯科医師の擦過細胞診は、LBCの一択!

神戸大学口腔外科で実施された
顎口腔擦過細胞診168例(2013~2022年)



本研究は、神戸大学医学部附属病院医学倫理審査委員会の承認を得て実施された。(承認番号:B200240)

図17. 判定サイドの取り組み：判定レポートの工夫



【記載事項】

① 採取された細胞の量

- (例) 「十分な細胞量が採取されています」
 「判定可能な細胞量が採取されています」
 「細胞量は少ないですが、観察される範囲では、～」
- 【少ない細胞量で付された判定】
 - 【十分な細胞量で付された判定】
- 臨床サイドは採取手技の見直しに繋がる

② 細胞所見

③ 細胞診専門歯科医からのコメント

LBCの導入により歯科医師の手技によらない均一な標本作製が可能で一連の技術の標準化を図ることができ、判定精度が向上すると見込まれる。

さらには、LBCで採取された54例の判定精度について検証した。本症例群は全てにおいて組織診は実施されていない。そこで今回は、細胞判定の結果を組織診と照合することに加えて、組織診が実施されていない症例については臨床経過を確認することとした。すなわち、細胞採取後3か月以内に臨床的に明確な増悪傾向を示さなかったものを非悪性と定義した。一方、臨床的に明らかに悪性であったが患者の希望から積極的な治療が選択されなかった症例は悪性と定義した¹⁵⁾。54例のうちNILMと判定された24例中23例(95.8%)は非悪性、OHSILまたはSCCと判定された17例のうち16例(94.1%)は悪性であった。

上記の検討から、擦過細胞診は口腔癌スクリーニングにおいて一定の役割を果たすものと考えられた。ただし、口腔細胞診は100%の精度ではないため、臨床医は細胞判定が臨床所見と合致しない場合は柔軟な対応が求められる。さらには、OLSILと判定された13例のうち3例(23.1%)に悪性症例が含まれることは看過できない。この結果は、OLSIL以上を口腔細胞診陽性(癌の可能性を除外すべき)と解釈し、患者を速やかに高次医療機関へ移行することを推奨するガイドラインの趣旨を支持するものと考えられる [図19]。

図19. 判定精度：組織診・臨床経過との対比

| 神戸大学口腔細胞診(口腔外科症例) | | | |
|-------------------|-----|----------|----|
| | 細胞診 | 組織診/臨床経過 | |
| 結果 | 件数 | 非悪性 | 悪性 |
| NILM | 24 | 23 | 1 |
| OLSIL | 13 | 10 | 3 |
| OHSIL | 6 | 1 | 5 |
| SCC | 11 | 0 | 11 |
| 計 | 54 | 34 | 20 |

NILM → 95.8% (23/24例)は非悪性
 OHSIL以上 → 94.1% (16/17例)は悪性
 OLSIL → 23.1% (3/13例)

OLSILは「癌の可能性がある：陽性」として取り扱う

さらには、pitfallと考えられる症例も見えてきた。口腔細胞診においては病変の肉眼形態にも注意を要する。内向型(糜爛・潰瘍など)・表在型(浅く広がる発育形式)・外向型(乳頭状・腫瘤状病変など)では擦過細胞診で回収される細胞に違いがあることが知られている [図20]。自験例からは、外向性増殖を示す口腔癌は病変表層の細胞異型が非常に軽度であること

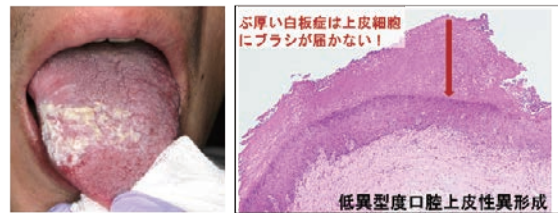
から過小判定となりやすいので特に注意を要すること¹⁶⁾、角質層が厚い表在型の病変も細胞採取が不十分になりやすいことが明らかとなっている [図21]。その他として、色調・表面性状が極めて有用な情報となる。例えば、口腔扁平上皮の発癌過程は白色変化に始まり、徐々に赤みが増し、表面の性状は粗造になってくる。

図20. 口腔細胞診のPitfall症例 ①



外向型SCCは過小判定となりやすい

図21. 口腔細胞診のPitfall症例 ②



角質層の厚い白板症は細胞採取が不十分になりやすい

これらの知見を踏まえて、神戸大学では口腔細胞診検体を提出する際には原則病変部の肉眼写真(口腔内写真)を添付することとしている。今後はpitfall症例について、さらなる知見の蓄積が望まれる。

5. 口腔細胞診の普及・均てん化に向けて

ここまで述べたように、我が国では口腔癌の罹患者数・死亡者数は右肩上がりでも推移しているのが現状で、若年化と女性患者の増加という新たな疫学的特徴も明らかになっている。一般歯科診療所における口腔癌早期発見の重要性が見直される中、2015年に口腔細胞診のガイドラインが刊行されて以降、客観的に病変の推定を行える口腔細胞診が新たなスクリーニングツールとして注目され、細胞診専門「歯科」医を中心に判定基準や活用法について討議が続いている。

一方で、細胞採取を実施するGPにはその情報がほとんど共有されておらず、認知度や普及についてかなりの地域差が生じているのが実情である。さらには、

病院歯科に所属する口腔外科医から「細胞診はさほど必要性を感じない」という声をよく耳にする。また、判定サイドからは「口腔細胞診は、せっかく勉強しても検体が提出されることがないので興味が湧かない」という声も聞かれる。

我が国における口腔細胞診の普及・均てん化が低調であることについて、筆者は病院歯科における細胞診の位置付けが明確に示されていない点に憂うべきものがあると考えている。口腔細胞診ガイドラインはGPのために作成されたものであることから、一般歯科診療所で一定のスクリーニングを経た病変について精査・加療を行うことを使命とする口腔外科医にとって、細胞診の意義・使い方はガイドラインの趣旨と異なる点が多いものと考えられる。

神戸大学病院口腔外科は口腔がんをハイボリュームで扱う病院歯科であるが、LBCと新報告様式を導入すると同時に、依頼書や報告書の記載の仕方について臨床サイドと判定サイドで対話を継続したところ、口腔細胞診の症例数は堅調に増加した [図22]。このことは、口腔外科医が日々の臨床で新ガイドラインに基づく口腔細胞診の有用性を認識していることを示唆している。同時に、細胞診の利点が活かされる「口腔がん治療現場に特有の局面（例：再発のスクリーニング）」が存在し、口腔外科医は「口腔がん治療現場に即した次の一手」の提示を望むことがわかってきた^{17), 18)}。今回の取り組みにより細胞診が口腔外科医にとって身近なツールとなったことから、顎骨内病変に対する穿刺吸引細胞診も俄かに注目を集めている¹⁹⁾。本学にお

ける顎骨内細胞診については別の機会に報告したい。

病院歯科は各地域のGPにとって最後の砦であると同時に地域歯科医療を先導する責務がある。したがって、口腔細胞診の地域格差の是正・適切な運用のためには、臨床と病理の両部門が協働し、病院歯科における細胞診の位置付けを再考することで口腔がん「治療」に上手く活用すると同時に、そこで得た知見をGPの立場に立ち積極的に発信する姿勢が重要ではないだろうか。

細胞診は臨床と病理の協働のもと、子宮頸がんスクリーニング検査として発達し、多くの患者が救われてきた。筆者は、そのkey personは細胞検査士であると認識している。これまで継承されてきた細胞形態の認識にとどまらず、より良い標本作製法や判定法について探求心を持ち日々力を注ぐプロ意識には頭の下がる思いである。

我が国は今、高齢化による医療ニーズの変化に伴い医科歯科連携を推し進めているが、これまで歯科（特に一般歯科診療）と病理のつながりは希薄でほとんど注目されることはなかった。日常的に病変の実像を眼で見て記録している病理医や細胞検査士が口腔粘膜疾患・口腔がんを正しく理解し、歯科臨床に資する細胞診断を実践できれば、臨床と病理の連携ひいては医科歯科連携に新たな展開が生まれ、多くの口腔癌が早期に発見され、死亡率減少はもとより、quality of lifeの向上に大きく貢献できると期待できる。歯科と病理の共闘が、多くの「人生」を救うのである。

図22. 神戸大学口腔外科における口腔細胞診の検体数の推移（2000年～2022年）

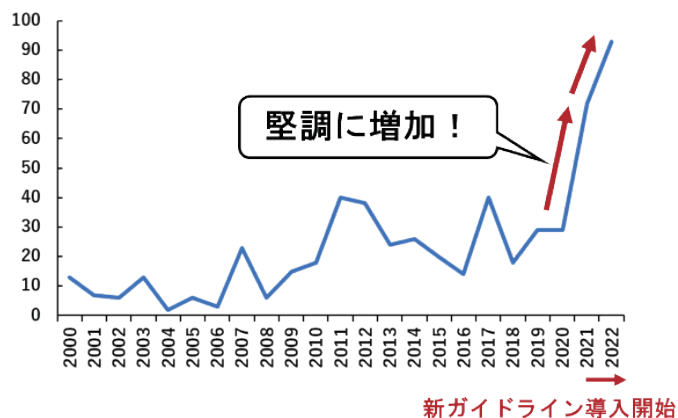
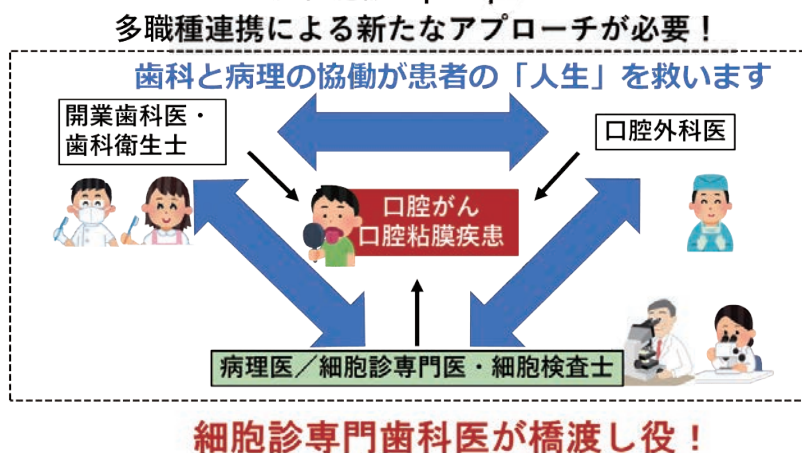


図23. 口腔細胞診のperspective



筆者は、口腔細胞診に関する多職種連携においては6年間歯学部で歯科医学を修め、卒後に病理診断の研鑽を積んだ細胞診専門歯科医が自ら問題提起し、自らそのソリューションを示すことが極めて重要であると考えている。細胞診専門歯科医が歯科と病理の懸け橋となり、「口腔細胞診の進むべき方向」を多職種で議論する場が醸成できれば幸いである【図23】。

謝辞

稿を終えるに当たり、ご助言をいただきました神戸大学大学院医学研究科地域連携病理学の河原邦光特命教授、日々の細胞判定についてご尽力いただいている塚本龍子先生をはじめとする神戸大学医学部附属病院病理部細胞検査士の皆様に深謝申し上げます。また、臨床データの解析にご協力をいただいた神戸大学大学院医学研究科外科系講座口腔外科学分野の明石昌也教授、口腔細胞診研究班の武田大介助教、佐々木亜紀先生、米田亜紀子先生に感謝の意を表します。

本発表に際し、診療情報および保管試料の使用について、患者または代理人からの同意を得た。

本研究は、神戸大学医学部附属病院医学倫理審査委員会の承認を得て実施された(承認番号：B220143)。

本論文の要旨は、第48回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会 教育講演(2023年12月10日、大阪)にて発表した。

本論文に対して開示すべき利益相反状態は無い。

参考文献

- 1) 国立がん研究センターホームページ：https://ganjo-ho.jp/public/cancer/tongue/patients.html (2024年3月3日アクセス)
- 2) Shibahara T. The current state of the Japanese oral cancer-There is life dentist can rescue-. J health Crae Dent 2021;22, 6 -19.
- 3) Bodner L, Manor E, Friger MD, van der Waal I. Oral squamous cell carcinoma in patients twenty years of age or younger--review and analysis of 186 reported cases. Oral Oncol 2014;50(2):84-9.
- 4) Farquhar DR, Tanner AM, Masood MM, et al. Oral tongue carcinoma among young patients: An analysis of risk factors and survival. Oral Oncol 2018;84: 7 -11.
- 5) Okuyama K, Yanamoto S, Michi Y, et al. Multi-center retrospective analysis of clinicopathological features and prognosis of oral tongue squamous cell carcinoma in adolescent and young adult patients. Medicine (Baltimore) 2021;100(41):e27560.
- 6) 森川貴迫, 岩本昌士, 柴原孝彦ほか：若年者舌扁平上皮癌の発症誘発因子の検討. 口腔腫瘍, 32(2): 29-37, 2020.
- 7) 森川貴迫, 太尾英子, 船越彩子ほか：当科における若年者口腔癌25年間の臨床統計的検討. 日口外誌, 62(4): 144-150, 2016.
- 8) 田中陽一：口腔がんを早期に発見するために 歯科における地域連携と“病理の役割”. 歯科学報, 112(1): 22-31, 2012.

- 9) El-Naggar AK, Chan JKC, Grandis JR, Takata T, Slootweg PJ (eds.) ; Centre International de Recherche sur le cancer. WHO Classification of Head and Neck Tumours; IARC Publications: Lyon, France, 2017.
- 10) 日本口腔腫瘍学会編：口腔癌取扱い規約第2版. P82-90, 東京：金原出版社, 2019
- 11) 楠川仁悟, 亀山忠光：口腔扁平上皮癌に対する Excisional biopsyの適応と実際. 口腔腫瘍, 13 (補冊4) : 261-265, 2001.
- 12) 楠川仁悟：早期口腔癌の外科治療. 日口外誌, 57 (11) : 568-576, 2011.
- 13) 日本臨床細胞学会編：細胞診ガイドライン5 消化器. P18-79, 東京：金原出版社, 2015
- 14) 日本臨床細胞学会ホームページ：細胞診用語集, <https://cdn.jbcc.or.jp/wp-content/themes/jbcc/zas-si/saiboushinyougo.pdf> (2022年5月25日アクセス)
- 15) 北村哲也：一般歯科診療所における口腔擦過細胞診～口腔がん早期発見に向けて. 北海道歯誌, 42 : 13-18, 2021.
- 16) 今川奈央子, 重岡学, 塚本龍子ほか：口腔細胞診バーチャルスライドカンファレンス：有茎性外向型病変の一例. 日臨細胞誌62 (補冊1) : 173, 2023.
- 17) 重岡学：口腔細胞診はじめの一歩 一医学部附属病院における取り組み一. 日臨細胞誌61 (補冊2) : 473, 2022.
- 18) 重岡学：病院歯科における細胞診：口腔外科医と細胞検査士の協働から見てきた効果と課題. 日臨細胞誌62 (補冊1) : 181, 2023.
- 19) Shigeoka M, Takeda D, Sasaki A, et al. Usability of smear cytology prepared for luminal contents combined with histological assessment in odontogenic keratocysts: A technical report of two cases. J Oral Maxillofac Surg Med Pathol 2024;36(4):642-647.

令和5年度 日本臨床細胞学会近畿連合会評議員会 議事録

日 時：令和5年11月28日（火） 17:00～17:45

場 所：Zoom ミーティング

出席者：井上 健、村田 晋一、竹中 明美、小笠原 利忠、岸本 光夫、藤井 智美、高橋 健太郎、内山 勲、鳥居 良貴、西浦 宏和、田中 真理、山内 盛正、森井 英一、若狭 朋子、豊田 進司、植田 政嗣、田路 英作、布引 治、桜井 孝規、山田 隆司、市村 友季、藤田 茂樹、廣川 満良、伊藤 智雄、河原 邦光、南口 早智子、樋野 陽子、森永 友紀子、島田 啓司、川口 龍二、小島 史好、今井 秀彰、馬場 正道、矢野 恵子、棚田 諭、塚本 龍子、上岡 英樹、白波瀬 浩幸、山口 直則、中川 有希子、岩井 宗男、江口 光徳、横田 裕香（以下順不同、敬称略）

報告事項

1) 会計報告

理事会（令和5年10月16日開催）において2022年度決算が報告され承認された。また2023年度予算案が承認された。

議 題

1) 評議員会～総会のスケジュール

第48回学術集会（12月10日開催）での会議はプログラムがタイトなため行わない。代わりにWeb会議として評議員会を事前に開催（11月28日）。理事はオブザーバーとして参加。

2) 会則改定と発効にむけての手順

理事に連携組織長以外に各府県細胞検査士会長にも加わっていただくことが理事会で決定された。理事会推薦理事として、植田 政嗣、豊田 進司、森井 英一、若狭 朋子、竹中 明美、田路 英作、布引 治、矢羽田 一信が推薦された。

3) 学術集会ローテーションの確認

第49回2024 滋賀→第50回2025 兵庫→第51回2026 和歌山→第52回2027 奈良→第53回2028 京都→第54回2029 大阪となるローテーションが確認された。

4) 第48回学術集会関係（河原先生）

2023年12月10日（日）大阪市中央公会堂にて開催予定。

5) 近畿連合会会誌のパスワード解除について

近畿連合会会誌のパスワード解除を行う。解除対象は今年発刊される第31号以降の会誌。個人情報に関わる新専門医、新細胞検査士合格者のページや連合会学術集会プログラムは掲載しない。

6) 次年度学術集会（第49回2024年滋賀）について（高橋先生）

2024年9月29日（日）ピアザ淡海（滋賀県立県民交流センター）。対面学会として開催予定。

7) 来春の第65回日本臨床細胞学会総会について（森井先生）

2024年6月7～9日第65回日本臨床細胞学会春期大会開催。近畿連合会会員皆様のご協力をお願いします。

8) 第65回日本臨床細胞学会総会向け近畿連合会から50万円の支援を用意。この件につき理事会で承認された。

9) 役員会の名称変更

これまで理事と評議員が共に集まり役員会として会議を行っていたが、今後はセパレートした形で理事会と評議員会として活動する。

以上

令和5年度 日本臨床細胞学会近畿連合会暫定理事会 議事録

日 時：令和6年4月22日（月） 18:00～18:30

場 所：Zoom ミーティング

出席者：井上 健、小笠原 利忠、小島 史好、竹腰 友博、田中 真理、棚田 諭、鳥居 良貴、西川 武（以下順不同、敬称略）

欠席者：岸本 光夫、高橋 健太郎、山内 盛正、吉澤 明彦

1. 2024年度 地域連携組織長、各府県細胞検査士会会長の紹介

地域連携組織長

| | | |
|-----|--------|----------------|
| 大阪 | 井上 健 | (大阪市立総合医療センター) |
| 京都 | 岸本 光夫 | (京都市立病院) |
| 滋賀 | 高橋 健太郎 | (昴会日野記念病院) |
| 奈良 | 吉澤 明彦 | (奈良県立医科大学) |
| 兵庫 | 小笠原 利忠 | (大久保病院) |
| 和歌山 | 小島 史好 | (和歌山県立医科大学) |

各府県細胞検査士会会長

| | | |
|-----|-------|--------------|
| 大阪 | 棚田 諭 | (大阪国際がんセンター) |
| 京都 | 竹腰 友博 | (京都市立病院) |
| 滋賀 | 山内 盛正 | (長浜赤十字病院) |
| 奈良 | 西川 武 | (天理大学) |
| 兵庫 | 鳥居 良貴 | (兵庫医科大学病院) |
| 和歌山 | 田中 真理 | (和歌山労災病院) |

2. 理事会推薦理事について

昨年度会則が改定され、理事は地域連携組織長（支部長）と各府県細胞検査士会会長に加えて、本会の活動・運営に有意義と理事会で推薦され、評議員会で認められた者より構成されることとなった。

暫定理事会で協議し以下の理事候補を推薦した。ご本人に諾否をおうかがいし、承諾いただいた後、評議員会にかける。万が一辞退された場合は、欠員とする。

専門医

| | |
|-------|----------------|
| 豊田 進司 | (奈良県総合医療センター) |
| 森井 英一 | (大阪大学医学部医学研究科) |
| 若狭 朋子 | (近畿大学奈良病院) |

細胞検査士

| | |
|-------|----------------|
| 内山 勲 | (大阪市立総合医療センター) |
| 塚本 龍子 | (神戸大学医学部附属病院) |
| 布引 治 | (神戸常盤大学) |

3. 会長、副会長の選出について

今後、理事が決定し次第、会長1名と副会長2名を選挙にて選出する。

4. 監事の選出について

監事は理事の業務執行の状況を監査するという役割であるので、理事、評議員以外の中立的な立場から選出する。委嘱は次期会長にゆだねる。

以上

—大阪府臨床細胞学会—

1, 会員数： 779名 (2024年3月31日現在)

(専門医会員 199名、検査士会員 561名、医師会員 16名、技師会員 3名)

2, 事務局：

住所：〒534-0021 大阪市都島区都島本通 2-13-22

大阪市立総合医療センター 病理部・病理診断科内

TEL：06-6929-1221(代表)

E-Mail：osaka.saibou@med.osakacity-hp.or.jp

URL：https://www.osaka-cytology.com/

3, 役員：(任期 2023年4月1日～2026年3月31日)

| | |
|----------|-----------------------------|
| 会長：井上 健 | (大阪市立総合医療センター 病理部・病理診断科) |
| 副会長：内山 勲 | (大阪市立総合医療センター 医療技術部) |
| 理事：市村 友季 | (大阪公立大学大学院医学研究科 婦人科) |
| 川村 直樹 | (大阪市立総合医療センター 婦人科) |
| 孝橋 賢一 | (大阪公立大学大学院医学研究科 診断病理・病理病態学) |
| 酒井 康裕 | (関西医科大学総合医療センター 病理診断科) |
| 桜井 孝規 | (大阪赤十字病院 病理診断科) |
| 蔦 幸治 | (関西医科大学 病態検査学) |
| 藤田 茂樹 | (住友病院 病理診断科) |
| 本間 圭一郎 | (大阪国際がんセンター 病理・細胞診断科) |
| 森井 英一 | (大阪大学大学院医学系研究科 病態病理学) |
| 安岡 弘直 | (大阪警察病院 病理診断科) |
| 安原 裕美子 | (堺市立総合医療センター 病理診断科) |
| 青木 弘 | (大阪警察病院 病理科) |
| 芦村 純一 | (大阪プレストクリニック) |
| 岡本 秀雄 | (住友病院 診療技術部 臨床検査科) |
| 小椋 聖子 | (大阪府済生会野江病院 病理診断科) |
| 棚田 諭 | (大阪国際がんセンター 病理・細胞診断科) |
| 田路 英作 | (森之宮医療大学 臨床検査学科) |
| 長友 忠相 | (大阪大学医学部附属病院 病理部) |
| 三村 明弘 | (PCL 大阪) |
| 矢野 恵子 | (関西医療大学保健医療学部 臨床検査学科) |
| 横田 裕香 | (大阪市立総合医療センター 医療技術部) |
| 監事：植田 政嗣 | (畿央大学 健康科学部) |

4. 活動報告：(2023 年度)

(1) 第 48 回大阪府臨床細胞学会学術集会

日 時：令和 6 年 3 月 2 日（土） 13：30～17：00

場 所：WEB 開催（大阪警察病院 2 階会議室より配信）

参加者数：182 名

プログラム：

開会の辞 学術集会会長 安岡 弘直

総 会 会長 井上 健

【要望講演Ⅰ】 座長：桜井 孝規（大阪赤十字病院）

1) EBUS-TBNAで印環細胞成分を含むALK陽性肺癌を認めた1例

大阪急性期・総合医療センター 病理科

岩瀬大輔、藤中浩樹、片平くるみ、立石愛美、倉澤佳奈、西尾祥邦、

佐々木志保、島津宏樹、松岡圭子、伏見博彰

2) 超音波気管支鏡ガイド下針生検施行時のサイトクイック染色を用いたオンサイ

ト迅速細胞診の有用性

大阪はびきの医療センター 病理診断科¹⁾、肺腫瘍内科²⁾、市立吹田市民病院 病理診断科³⁾、神戸大学大学院医学研究科 地域連携病理学⁴⁾

大西雅子¹⁾、梶尾健太¹⁾、木佐京子³⁾、飯田健斗¹⁾、鈴木秀和²⁾、上田佳世¹⁾、河原邦光⁴⁾

【要望講演Ⅱ】 座長：井上 健（大阪市立総合医療センター）

1) 新型コロナウイルス感染症の細胞診への影響：日本臨床細胞学会認定施設年報集計からみた全国調査報告

堺市立総合医療センター 臨床検査技術科¹⁾、近畿大学奈良病院 病理診断科²⁾、亀田総合病院 臨床検査室病理³⁾、公立昭和病院 臨床検査科⁴⁾、

東京医科大学病院 病理診断科⁵⁾、国立病院機構松江医療センター 呼吸器外科⁶⁾、

総合病院土浦協同病院 臨床検査部⁷⁾、東京医科大学病院 病理診断科⁸⁾、

鳥取県立中央病院 外科⁹⁾

佐々木伸也¹⁾、若狭朋子²⁾、小山芳徳³⁾、濱川真治⁴⁾、三宅真司⁵⁾、荒木邦夫⁶⁾、

池田 聡⁷⁾、長尾俊孝⁸⁾、廣岡保明⁹⁾

2) コロナ禍における細胞診業務への影響に関するアンケート調査

森ノ宮医療大学医療技術学部 臨床検査学科

田路英作

【特別講演】 座長：安岡 弘直（大阪警察病院）

「ゲノムストレスと発がんメカニズム」

国立がん研究センター研究所 ゲノムストレス応答学ユニット 塩谷 文章

【大阪府細胞検査士会活動報告】

ー第 18 回自己採点方式スライドカンファレンス解析結果報告ー

大阪府細胞検査士会 精度保証委員会
閉会の辞 次期学術集会会長 桜井 孝規

— 大阪府細胞検査士会 —

1, 会員数 : 533 名 (2024 年 6 月 18 日現在)

2, 事務局 :

住所 : 大阪市都島区都島本通 2-13-22、TEL : 06-6929-1221

URL : <https://www.osaka-cytology.com/>

3, 役員 : (任期)

会 長 : 内山 勲 (大阪市立総合医療センター)

副会長 : 岡本 秀雄 (住友病院)

棚田 諭 (大阪国際がんセンター)

理 事 (幹 事) :

青木 弘 (大阪警察病院)

大瀬 香菜 (大阪市立総合医療センター)

羽鳥 暢晃 (阪大微生物病研究会)

松永 志保 (関西医科大学総合医療センター)

和田 恭典 (大阪赤十字病院)

川端 拓司 (大阪公立大学医学部附属病院)

長友 萌 (大阪刀根山医療センター)

深田 知也 (淀川キリスト教病院)

梶尾 麻衣 (大阪市立十三市民病院)

岡 大地 (大阪母子医療センター)

梶尾 健太 (大阪はびきの医療センター)

倉澤 佳奈 (大阪府急性期・総合医療センター)

山東 香織 (関西医科大学附属病院)

田口 雅子 (近畿中央呼吸器センター)

長友 忠相 (大阪大学医学部附属病院)

三村 明弘 (PCL 大阪)

伊藤 寛子 (関西医科大学附属病院)

岡野 公明 (関西医科大学附属病院)

城戸 貴之 (大阪府済生会野江病院)

瀬戸家 要 (第二大阪警察病院)

富宇加 麻里 (大阪医科薬科大学病院)

横田 裕香 (大阪市立総合医療センター)

監 事：菅原 敦子 (大阪府医師会保健医療センター)
田路 英作 (森ノ宮医療大学)

4. 活動報告：(2023 年度)

(1) 2023 年度総会・第 47 回学術研修会

日時：2023 年 7 月 8 日 (日) 13:00~16:55

場所：Webex による WEB 開催

参加者数：109 名

【プログラム】

I. 総会

II. 第 47 回学術研修会

1) 特別講演『細胞診中毒者のひとりごと～甲状腺編～』

関西医科大学附属病院 耳鼻咽喉科 阪上 智史

2) 第 18 回自己採点方式スライドカンファレンス問題提示・解答

第二大阪警察病院 瀬戸家 要

3) 要望講演『臍 EUS-FNA の細胞像と鑑別疾患』

九州大学病院 病理診断科・病理部 大久保 文彦

4) 教育講演『乳腺細胞診の見方と考え方』

北里大学北里研究病院 病理診断科 小穴 良保

(2) 令和 5 年度ワークショップ

日時：(講義) 2023 年 11 月 25 日 (土) 13:30~15:30

(実習) 11 月 26 日 (日) 10:00~13:00

場所：(講義) Webex によるウェビナー開催

(実習) 大阪医科薬科大学 講義実習棟 3 階 大実習室

参加者数：(講義) 71 名 (実習) 19 名

【内容】

講義 1 『肺癌細胞診における組織型推定に役立つ細胞所見について』

熊本大学病院 病理部 柿沼 廣邦

講義 2 『リンパ節の細胞診』

杏林大学医学部附属病院 病院病理部 岸本 浩次

検鏡実習

1. 呼吸器 15 症例

2. リンパ節 20 症例

3. 精度保証部 (第 18 回スライドカンファレンス低正解率症例を中心に) 15 症例

(3) 第 48 回学術研修会

日時：2023 年 2 月 19 日 (日) 13:00~17:35

場所：大阪市立総合医療センター さくらホール

参加者数：71名

【プログラム】

- 1) 要望講演『細胞診検体におけるゲノム解析の現状と展望について』
北海道大学病院 畑中 佳奈子
- 2) 第19回自己採点方式スライドカンファレンス問題提示
大阪医科薬科大学病院 富宇加 麻里
大阪市立総合医療センター 横田 裕香
- 3) 特別講演『大阪府細胞検査士会の取り組みと今後の課題～さらに発展するために～』
大阪市立総合医療センター 内山 勲
- 4) 教育講演『ウラ側からみる子宮頸がん検診用紙 ～ポリープはありますか～』
大阪公立大学大学院医学研究科 市村 友季
- 5) 第19回自己採点方式スライドカンファレンス集計・解答・解説
大阪医科薬科大学病院 富宇加 麻里
大阪市立総合医療センター 横田 裕香

— 京都臨床細胞学会 —

1, 会員数 : 305 名 (2023 年 12 月 31 日現在)

(専門医会員 73 名、歯科専門医会員 1 名、検査士会員 225 名、医師会員 4 名、技師会員 2 名)

2, 事務局 : 京都大学医学部附属病院病理診断科

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54

TEL 075-751-3491 (dial-in)

E-mail : jsec.kyoto@gmail.com

URL : <https://jsec-kyoto.jp>

3, 役員 : (2023 年～2025 年)

会 長 : 岸本 光夫 (京都市立病院)

幹 事 : 南口 早智子 (京都大学医学部附属病院)

竹腰 友博 (京都市立病院)

平田 勝啓 (京都大学医学部附属病院)

平伴 英美 (京都大学医学部附属病院)

古畑 彩子 (京都大学医学部附属病院)

白波瀬 浩幸 (京都大学医学部附属病院)

森永 友紀子 (京都府立医科大学附属病院)

中川 有希子 (京都府立医科大学附属病院)

渋谷 信介 (京都桂病院)

樋野 陽子 (京都第一赤十字病院)

江口 光徳 (宇治徳洲会病院)

大澤 幸希光 (京都橘大学)

後藤 涉子 (明治国際医療大学)

真下 照子 (京都第二赤十字病院)

山口 直則 (綾部市立病院)

野田 みゆき (京都市立病院)

寄木 香織 (京都府立医科大学附属病院)

吉澤 明彦 (京都大学医学部附属病院, 京都大学大学院医学研究
附属解剖センター)

長峯 理子 (京都府立医科大学)

稲森 理 (京都第一赤十字病院)

青木 一美 (新京都南病院)

鬮橋 進吾 (京都第一赤十字病院)

津田 千尋 (市立福知山市民病院)

二宮 慶太（京都桂病院）
吉岡 沙織（洛和会音羽病院）
羽賀 博典（京都大学医学部附属病院）
矢野 由佳（京都民医連中央病院）

4. 活動報告：（2023年度）

1) 第39回京都臨床細胞学会学術集会

日時：令和5年7月23日（日）

開催形式：京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール（Zoomによるライブ配信を併用したハイブリッド形式）

内容：

特別講演1「呼吸器細胞診-WHO報告様式と腺癌/扁平上皮癌を鑑別するための構造異型」

香川大学医学部附属病院 病理診断科 羽場 礼次 先生

特別講演2「尿細胞診—膀胱癌患者の予後を改善するために」

愛知医科大学医学部 病理診断学講座 都築 豊徳 先生

一般演題6題

2) 令和6年京都臨床細胞学会総会ならびに第37回生活習慣病予防検診細胞診従事者研修会

日時：令和6年2月25日（日）13:00～17:00

開催形式：現地開催

内容：

講演1『乳腺診療のトピックスと病理診断・細胞診断』

大井 恭代 先生（博愛会相良病院 病理診断科）

講演2『子宮頸部細胞診の今後—HPV検査単独法に向けて』

三上 芳喜 先生（熊本大学病院 病理診断科（病理部））

○スライドカンファレンス2題

5. その他：

1) 第40回京都民医連中央病院「細胞診教育セミナー」の後援

受講者11名

一次試験は9名受験し、3名合格。

二次試験は一次試験免除者等2名とあわせて、5名受験し、2名合格。

— 京都府細胞検査士会 —

1, 会員数 : 225名 (2023年12月31日現在)

2, 事務局 : 京都市立病院 臨床検査技術科

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1の2

3, 役員 : (2023年~2025年)

部会長 : 竹腰 友博 (京都市立病院 臨床検査技術科)

4, 活動報告 : (2023年度)

1) 第16回京都府細胞診ワークショップ<共催>

日時 : 令和5年6月25日(日) 13:30~17:30

開催場所 : 京都保健衛生専門学校 視聴覚室ならびに第二実習室

内容 : 講義およびワークショップ

講義「甲状腺細胞診のミカタ」

ワークショップ「甲状腺細胞診40例」

講師 : 鈴木 彩菜 先生 (隈病院 病理診断科)

2) 子宮の日 子宮頸がん検診啓発活動 (2023 LOVE49)

日時 : 令和5年11月11日(土) 10:00~15:00

開催場所 : イオンモール京都桂川店 イオンホール

内容 :

1. 子宮頸がん、がん検診受診についての掲示
2. パンフレット、ビラ等の配布
3. 子宮頸部癌細胞の顕微鏡での観察体験

一 兵庫県臨床細胞学会 一

- 1, 会員数 :** 462 名 (令和 6 年 3 月 28 日現在)
(専門医会員 97 名、検査士会員 360 名、医師会員 4 名、技師会員 1 名)
- 2, 事務局 :** 兵庫医科大学病院 病院病理部内
住所 : 兵庫県西宮市武庫川町 1-1、TEL : 0798-45-6324、FAX : 0798-45-6325、
E-Mail : jscc-hyogo@hyo-med.ac.jp、URL : <https://hyogo-scc.jp> など
- 3, 役員 :** (任期 2 年)
会 長 : 小笠原 利忠 (誠仁会 大久保病院)
副会長 : 廣川 満良 (神甲会 隈病院)
鳥居 良貴 (兵庫医科大学病院)
理 事 (幹 事) : 伊藤智雄 (神戸大学医学部附属病院)、梶本和義 (兵庫県立がんセンター)、河原邦光 (神戸大学) 杉原綾子 (明和病院)、内藤子来 (誠仁会大久保病院)、廣田誠一 (兵庫医科大学病院)、上岡英樹 (JCHO 神戸中央病院)、川越道夫 ((株) 協同病理)、真田浩一 (兵庫県立尼崎総合医療センター)、高田直樹 (加古川総合保健センター)、塚本龍子 (神戸大学医学部附属病院) 布引治 (神戸常盤大学)、山下展弘 (神戸市立医療センター西市民病院)
監 事 : 長谷川和男 (北摂中央病院)、萩原勝美 (自宅会員)
- 4, 活動報告 :** (令和 5 年度)
- (1) 役員会 (メール会議)
令和 5 年度第 1 回 令和 5 年 5 月
令和 5 年度第 2 回 令和 5 年 10 月
令和 5 年度第 3 回 令和 6 年 1 月)
- (2) 兵庫県臨床細胞学会細胞診研修会
1. 第 1 回兵庫県臨床細胞学会・兵庫県細胞検査士会研修会
令和 6 年 1 月 27 日 (土) 講演、バーチャルスライド及びスライドカンファレンス
- (3) 第 15 回神戸甲状腺診断セミナー
令和 6 年 2 月 3 日 (土) ~ 4 日 (日)
2/3 (土) 13 : 00 ~ 18 : 00 (講演) : 神戸市産業振興センター 3F ハーバーホール
2/4 (日) 8 : 45 ~ 16 : 30 (鏡検実習) : 神戸大学医学部病理組織第 2 実習室
- (4) 「子宮の日」 LOVE49 キャンペーン inKOBE
日程 : 令和 5 年 4 月 9 日 (日)
内容 : ① 子宮頸がん解説、パネルの展示、資料配布
② 学生フォーラム (神戸常盤大学)・神戸市

- ③社会福祉団体を通じた啓発資料（子宮頸がんに関する資料）の配布
- (5) 2023 年度第 40 回兵庫県臨床細胞学会総会
- 日程：令和 6 年 3 月 9 日（土）12：30-17：00
- 開催：現地+WEB によるハイブリッド方式
- 内容：①特別講演 1
- 「当院における FISH 検査の取り組み」
- 梶本 和義 先生（兵庫県立がんセンター 病理診断科）
- ②特別講演 2
- 「兵庫の口腔細胞診を考える
- 他職種協働によるアプローチで患者の「人生」を救う -」
- 重岡 学 先生（神戸大学大学院医学研究科 病理学講座 病理学分野）
- ③一般演題 2 演題
- ④スライドカンファレンス 2 症例

— 兵庫県細胞検査士会 —

1. 会員数： 361 名（令和 6 年 3 月 9 日現在）（※会費収入より）
2. 事務局： JCHO 神戸中央病院 病理部内
- 住所：神戸市北区惣山町 2-1-1、TEL：078-594-2211、FAX：078-594-2245、
E-Mail：hyogoct-office@hyo-med.ac.jp、URL：https://www.hyogoct.com
3. 役員：（任期 2 年）
- 会 長：鳥居良貴（兵庫医科大学病）
- 副会長：真田浩一（兵庫県立尼崎総合医療センター）
- 塚本龍子（神戸大学医学部附属病院）
- 上岡英樹（JCHO 神戸中央病院）
- 幹 事：岩本英樹（登録衛生検査所 協同病理）小川隆文（登録衛生検査所 協同病理）川越道夫（登録衛生検査所 協同病理）川嶋雅也（兵庫県臨床検査研究所）川村道広（近畿中央病院）駒井隆夫（神戸赤十字病院）高田直樹（加古川総合保険センター）永谷たみ（姫路赤十字病院）中村純子（兵庫医科大学）布引治（神戸常盤大学）松木慎一郎（兵庫県立西宮病院）山尾直輝（隈病院）山下展弘（神戸市立医療センター西市民病院）
- 監 事：小松敏也（宝塚市立病院）
4. 活動報告：（令和 5 年度）
- (1) 役員会（WEB会議）
- 令和 5 年度第 1 回 令和 5 年 4 月 26 日（火）
- 令和 5 年度第 2 回 令和 5 年 9 月 12 日（火）

令和 5 年度第 3 回 令和 5 年 11 月 15 日 (水) 第 1 回役員・地区委員合同 WEB
会議

令和 5 年度第 4 回 令和 5 年 12 月 25 日 (月) 第 2 回役員・地区委員合同 WEB
会議

令和 5 年度第 5 回 令和 6 年 2 月 6 日 (火) 第 3 回役員・地区委員合同 WEB
会議

(2) 兵庫県細胞検査士会研修会

1. 検査士会神戸地区委員研修会

令和 5 年 6 月 30 日 (金)

2. 検査士会西播地区委員研修会

令和 5 年 12 月 1 日 (金)

3. 第 1 回兵庫県細胞検査士会・兵庫県臨床細胞学会研修会 (合同)

令和 6 年 1 月 27 日 (土) 講演、バーチャルスライド及びスライドカンファレンス

(3) 「兵庫県細胞検査士会メールジャーナル」配信

兵庫県細胞検査士会の活性化を目的に、活動や勉強会等の情報を届けた。

(4) ABCDプロジェクト (自己学習のための症例集)

教育的視野から細胞判定のセルフスタディ (自己学習) 問題と解答解説を作成し、
会員メーリングリスト (ML) 配信および兵庫県細胞検査士会ホームページにパ
スワード付で掲載した。

(5) 「子宮の日」LOVE49 キャンペーン in KOBE

日程：令和 5 年 4 月 9 日 (日)

内容：(1) 子宮頸がん解説、パネルの展示、資料配布

(2) 学生フォーラム (神戸常盤大学)・神戸市 その他

(3) 社会福祉団体を通じた啓発資料 (子宮頸がんに関する資料) の配布

— 奈良県臨床細胞学会 —

1, 会員数 : 92名 (令和6年3月31日現在)

(専門医会員 26名、歯科専門医会員 0名、検査士会員 62名、医師会員 15名、技師会員 0名)

2, 事務局 :

住所 : 〒634-8502 奈良県橿原市内膳町 5-5-8 奈良県医師会内

TEL : 0744-22-8502 FAX : 0744-23-7796 E-Mail : saibou@nara.med.or.jp

URL : <https://plaza.umin.ac.jp/~jsccnara/>

3, 役員 : (任期 令和3年度～令和5年度)

会 長 : 藤井 智美 (奈良県立医科大学 / 大阪大学大学院医学系研究科)

理 事 : 石田 英和 (奈良県総合医療センター)

乾 朝子 (南奈良総合医療センター)

内山 智子 (奈良県立医科大学)

浦 雅彦 (近畿大学奈良病院)

岡田 博 (奈良県西和医療センター)

金森 直美 (天理よろづ相談所病院)

小林 史孝 (市立奈良病院)

杉本澄美玲 (奈良県立医科大学)

住吉 真治 (天理よろづ相談所病院)

高野 将人 (南奈良総合医療センター)

武田麻衣子 (奈良県立医科大学)

辻野 秀夫 (奈良県総合医療センター)

豊田 進司 (奈良県総合医療センター)

西浦 宏和 (大和高田市立病院)

西川 武 (奈良県立医科大学附属病院)

松岡未奈巳 (奈良県立医科大学)

森田 剛平 (奈良県総合医療センター)

山田 有紀 (奈良県立医科大学)

吉澤 明彦 (奈良県立医科大学)

吉田 和弘 (奈良市総合医療検査センター)

若狭 朋子 (近畿大学奈良病院)

会 計 松田江身子 (天理よろづ相談所病院)

監 事 島田 啓司 (市立奈良病院)

川口 龍二 (奈良県立医科大学)

顧 問 中村 忍

野々村昭孝

小西 登
小林 浩
太田 善夫
大林 千穂
藤原 潔

4. 活動報告：(令和5年度)

第38回 奈良県臨床細胞学会 総会・学術集会

日時：令和5年12月9日(土)

場所：奈良県医師会館 3階 講堂

○総会 [14:00~14:20]

○学術集会 [14:20~17:15]

I 開会の辞 第38回学術集会担当世話人

森田剛平(奈良県総合医療センター病理診断科)

II 一般講演 [14:20~15:05]

座長 奈良県立医科大学附属病院 病院病理部 西川 武

1. 膀胱マラコプラキアの一症例

市立奈良病院 臨床検査室 病理⁽¹⁾

大阪大学 病態病理学講座⁽²⁾

奈良県立医科大学 病理診断科⁽³⁾

市立奈良病院 病理診断科⁽⁴⁾

○鎌倉佳子(CT)⁽¹⁾ 松山友彦(CT)⁽¹⁾ 政 俊行(MT)⁽¹⁾ 吉田朋子(CT)⁽¹⁾

藤岡梨香(MT)⁽¹⁾ 小林史孝(CT)⁽¹⁾ 藤井智美(MD)⁽²⁾ 新田勇治(MD)⁽³⁾

島田啓司(MD)⁽⁴⁾

2. 判定困難であった腹腔内腫瘍 EUS-FNA の細胞像

大和高田市立病院 病理技術科⁽¹⁾

奈良県総合医療センター 病理診断科⁽²⁾

南奈良総合医療センター 病理診断科⁽³⁾

済生会中和病院 病理診断科⁽⁴⁾

○西浦宏和(CT)⁽¹⁾ 小川詩織(MT)⁽¹⁾ 鍵谷明莉(MT)⁽¹⁾ 杉村照子(MT)⁽¹⁾

元川雄貴(MD)⁽¹⁾ 森田剛平(MD)⁽²⁾ 高野将人(MD)⁽³⁾ 堤 雅弘(MD)⁽⁴⁾

3. 腺退形成癌の1例

奈良県総合医療センター 臨床検査部⁽¹⁾

奈良県総合医療センター 病理診断科⁽²⁾

○辻野秀夫(CT)⁽¹⁾ 西田真菜可(CT)⁽¹⁾ 泉屋直輝(CT)⁽¹⁾ 南 佳世(CT)⁽¹⁾

山川昭彦(CT)⁽¹⁾ 森田剛平(MD)⁽²⁾ 石田英和(MD)⁽²⁾

III 教育講演 [15:15~16:15]

座長 奈良県総合医療センター 病理診断科 森田剛平

「膵癌治療の最近の動向と細胞診断の重要性」

奈良県立医科大学 消化器・総合外科学教室 教授 庄 雅之 先生

IV 特別講演 [16:15~17:15]

座長 奈良県総合医療センター 病理診断科 森田剛平

「胆膵細胞診のポイント」

久留米大学病院 臨床検査部 部長 内藤嘉紀 先生

V 閉会の辞 [17:15]

第17回 奈良県臨床細胞学会ワークショップ

日時：令和6年1月20日（土）

場所：奈良県立医科大学基礎医学棟（講義：1階 第2講義室 実習：5階 実習室）

講演会テーマ「乳腺の細胞診」

○講演

座長 天理よろづ相談所病院 病理診断部 部長 住吉真治

「乳腺の組織と細胞診：良性と悪性の境界」

大阪赤十字病院 病理診断科 部長 桜井孝規 先生

○検鏡実習

「乳腺の細胞像」

実習担当：天理よろづ相談所病院 病理診断部 部長 住吉真治 先生

— 奈良県細胞検査士会 —

1, 会員数： 40名（令和6年3月31日現在）

2, 事務局：

住所：〒635-8501 奈良県大和高田市磯野北町1-1

大和高田市立病院

TEL：0745-53-2901 FAX：0745-53-2908

E-Mail：west-back909-12@outlook.jp

3, 役員：（任期：令和4年度～令和5年度）

会長：西浦 宏和（大和高田市立病院）

副会長：坂本 真一（天理よろづ相談所病院）

浦 雅彦（近畿大学奈良病院）

幹事：小林 史孝（市立奈良病院）

西川 武（奈良県立医科大学附属病院）

監事：松田 江身子（天理よろづ相談所病院）

龍見 重信（奈良県立医科大学附属病院）

会 計：辻野 秀夫（奈良県総合医療センター）

4. 活動報告：（令和5年度）

子宮頸がん検診啓発活動 LOVE49

開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため街頭活動は中止となった。配布物は、医療大学や看護学校を中心に配布を行った。

— 和歌山臨床細胞学会 —

1, 会員数 : 75名 (2023年12月31日現在)

(専門医会員21名、検査士会員43名、医師会員12名、技師会員0名)

2, 事務局 : 和歌山県立医科大学人体病理学教室内

住所 : 〒641-8509 和歌山県和歌山市紀三井寺811-1、

TEL : 073-441-0635、FAX : 073-444-5777、

E-Mail : wsc@wakayama-med.ac.jp、

URL : <http://wsc.umin.jp/>

3, 役員 : (任期 : 2022年4月1日～2024年3月31日)

会 長 : 村田 晋一 (和歌山県立医科大学 人体病理学教室 教授)

(～2024年2月2日)

: 小島 史好 (和歌山県立医科大学附属病院 人体病理学教室 准教授)

(2024年2月3日～)

副 会 長 : 井籠 一彦 (和歌山県立医科大学 産科婦人科学教室 教授)

稲垣 充也 (公立那賀病院 臨床検査科 技師長補佐)

理 事 : 今井 秀彰 (桜ヶ丘病院 婦人科 医長)

尾崎 敬 (紀南病院 中央臨床検査部 部長)

小島 史好 (和歌山県立医科大学附属病院 人体病理学教室 准教授)

(～2024年2月2日)

村田 晋一 (和歌山県立医科大学 人体病理学教室 教授)

(2024年2月3日～)

木下 勇一 (和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部病理診断部門)

真谷 亜衣子 (日本赤十字社和歌山医療センター 病理診断科部 病理課長)

田中 真理 (和歌山労災病院 中央検査部 主任)

谷本 敏 (和歌山労災病院 産婦人科 部長)

坪田 ゆかり (和歌山労災病院 病理診断科 部長)

松崎 生笛 (和歌山県立医科大学 人体病理学教室)

峰 高義 (紀南病院 中央臨床検査部 主任)

吉田 隆昭 (日本赤十字社和歌山医療センター 産婦人科 部長)

吉田 恵 (海南医療センター 検査部)

監 事 : 岡田 雄一 (日高マタニティクリニック 院長)

宮木 康夫 (海南医療センター 検査部長)

名誉会員 : 赤山 紀昭 (元赤山産婦人科医院 院長)

馬淵 義也 (馬淵医院 院長)

矢本 希夫（和歌山労災病院 女性診療科 部長）

横田 栄夫（関西医療大学 元看護学部長）

4. 活動報告：(2023 年度)

執行部会・症例検討会

2023 年 1 月 12 日、4 月 20 日、6 月 15 日、9 月 14 日、10 月 19 日、12 月 21 日

第 47 回和歌山臨床細胞学会 総会・学術集会

学術集会長 木下 勇一（和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部 病理診断部門）

和歌山臨床細胞学会会長 村田 晋一

2023 年 2 月 4 日（土）（13:00～17:45）

和歌山県立医科大学 紀三井寺キャンパス 基礎教育棟 3 階 講義室 3

（和歌山県和歌山市紀三井寺 811 番地 1）

総合司会：奥村 寿崇（日本赤十字社和歌山医療センター 病理診断科部）

【開会の辞】（13:00～13:05）

学術集会長 木下 勇一（和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部 病理診断部門）

【総会】（13:05～13:45）

(1) 令和 4 年度事業報告・令和 5 年度事業予定

和歌山臨床細胞学会 副会長 稲垣 充也

(2) 令和 4 年度会計報告・令和 5 年度予算案 和歌山臨床細胞学会 理事 田中 真理

(3) 理事会報告 和歌山臨床細胞学会 会長 村田 晋一

(4) 新人紹介 和歌山臨床細胞学会 会長 村田 晋一

（休憩 5 分）

【学術集会】

① 教育講演（13:50～14:35）

座長：木下 勇一（和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部 病理診断部門）

「胸水細胞診における鑑別診断フロー

～鑑別に有用な免疫細胞マーカーの特性と Pitfall～」

福岡大学病院 病理部 技師長 松本 慎二 先生

（休憩 10 分）

② 一般演題（14:45～15:15）

座長：紙谷 知子（公立那賀病院 臨床検査科）

笠松 功（紀南病院 中央臨床検査部）

(1) 「甲状腺穿刺吸引細胞診で鑑別困難であった細胞像の検討」

○田中 彩花、溝畑 知穂、阪田 幸範、奥村 寿崇、真谷 亜衣子、

辻井 秀明、中山 理祐子、小野 一雄

日本赤十字社和歌山医療センター 病理診断科部

(2) 「胸水の遺伝子検索にて ALK 陽性であった 1 例」

○北田 佳緒里¹⁾、糸川 夏帆¹⁾、楠木 結香¹⁾、田中 真理¹⁾、谷川 直人¹⁾、
坪田 ゆかり²⁾

¹⁾独立行政法人労働者健康安全機構 和歌山労災病院 中央検査部

²⁾独立行政法人労働者健康安全機構 和歌山労災病院 病理診断科

(3) 「当院における子宮頸部細胞診 AGC 判定の検討」

○坂本 果穂¹⁾、木下 勇一¹⁾、永井 宏和¹⁾、松崎 生笛²⁾、吉井 輝子¹⁾、
杉山 絵美¹⁾、工藤 祥太¹⁾、荻野 みなみ¹⁾、目 佳那子²⁾、西川 瑞希²⁾、
三笠 友理奈²⁾、高橋 祐一²⁾、岩元 竜太²⁾、小島 史好²⁾、村田 晋一²⁾

¹⁾和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部 病理診断部門

²⁾和歌山県立医科大学 人体病理学教室/病理診断科

(休憩 5分)

③ スライドカンファレンス (15:20~16:10)

座長：中山 理祐子 (日本赤十字社和歌山医療センター 病理診断科部)

栗山 行央 (紀南病院 中央臨床検査部)

(1) 婦人科 出題者：楠木 結香 (和歌山労災病院 中央検査部)

回答者：西川 瑞希 (和歌山県立医科大学 人体病理学教室/病理診断科)

(2) 体腔液 出題者：工藤 祥太 (和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部 病理診断部門)

回答者：河部 真希 (海南医療センター 検査部)

(休憩 5分)

④ 共催企業紹介 (16:15~16:20)

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

⑤ 特別講演 (16:20~17:20)

座長：今井 秀彰 (桜ヶ丘病院 婦人科)

「子宮頸部 LEGH の臨床像と細胞像」

山梨大学医学部 産婦人科 病院教授 端 晶彦 先生

⑥ フォトコンテスト表彰 (17:20~17:35)

【次期学術集会長挨拶】 (17:35~17:40) 松本 安子 (和歌山県立医科大学)

【閉会の辞】 (17:40~17:45) 和歌山臨床細胞学会 会長 村田晋一

— 和歌山県細胞検査士会 —

1, 会員数 : 43 名 (2023 年 12 月 31 日現在)

2, 事務局 : 和歌山労災病院 中央検査部内

住 所 : 〒640-8505 和歌山県和歌山市木ノ本 93-1

T E L : 073-451-3181(内線 2260) FAX : 073-451-7172

E-mail : maring@r.sannet.ne.jp

U R L : <http://square.umin.ac.jp/WSC>

3, 役員 : (任期 2023 年～2024 年)

会 長 : 田中 真理 (和歌山労災病院 中央検査部)

副会長 : 真谷 亜衣子 (日本赤十字社和歌山医療センター 病理診断科部)

幹 事 : 稲垣 充也 (公立那賀病院 臨床検査科)

吉田 恵 (関西医療大学 保健医療学部 臨床検査学科)

吉井 輝子 (和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部)

監 事 : 宮木 康夫 (海南医療センター 検査部)

4, 活動報告 : (2023 年)

(1)和歌山県細胞検査士会幹事会

第 1 回 2023 年 1 月 6 日 (金) (Web 会議)

第 2 回 2023 年 4 月 8 日 (土) 和歌山労災病院 (ハイブリッド会議)

第 3 回 2023 年 10 月 15 日 (土) 和歌山労災病院

(2)和歌山県細胞検査士会総会

日時 : 2023 年 2 月 4 日 (土) 10 : 45～11 : 45

場所 : 和歌山県立医科大学 紀三井寺キャンパス 基礎教育棟 3 階 講義室 2

(3)子宮の日 -LOVE49 活動-

1)和歌山市内地区

日 時 : 2023 年 4 月 22 日 (土) 9 : 00～13 : 00

場 所 : 和歌山城 砂の丸広場 (メーデー和歌山県中央集会に参加)

参加者数 : 24 名

活動内容 : 資料 500 部配布

ポスター掲示、アンケート実施 (約 200 名)

2)紀南地区

日 時 : 2023 年 4 月 29 日 (土) 10 : 00～15 : 00

場 所 : 田辺市 扇ヶ浜公園カッパーク (メーデーイベントに参加)

参加者数 : 12 名

活動内容 : 資料 500 部配布

3) 和歌山市内地区

日 時 : 2023年7月14日(金) 15:30~16:00

場 所 : 和歌山県立高等看護学院

参加者数 : 2名

活動内容 : 子宮頸がん検診啓発講演

(4) 細胞検査士会研修会

2023年 第1回 細胞検査士会研修会

日 時 : 2023年4月8日(土) 13:00~16:00

場 所 : 和歌山労災病院 (Zoomを用いたハイブリッド開催)

参加者数 : 22名

内 容 : 講演

『石綿肺癌と中皮腫について』

和歌山労災病院 田中 真理

症例検討会 (4 症例)

- | | | |
|---------|-------------------|--------|
| 1. 泌尿器 | : 公立那賀病院 | 稲垣 充也 |
| 2. 子宮頸部 | : 和歌山労災病院 | 北田 佳緒里 |
| 3. リンパ節 | : 紀南病院 | 栗山 行央 |
| 4. 胸 水 | : 日本赤十字社和歌山医療センター | 阪田 幸範 |

2023年 第2回 細胞検査士会研修会

日 時 : 2023年12月6日(土) 13:00~16:00

場 所 : 海南医療センター

参加者数 : 21名

内 容 : 講演

『当院での肺癌遺伝子検査とそれに関連する迅速細胞診の現状』

海南医療センター 河部 真希

症例検討会 (5 症例)

- | | | |
|---------|-------------------|--------|
| 1. 胸 水 | : 公立那賀病院 | 稲垣 充也 |
| 2. リンパ節 | : 和歌山労災病院 | 田中 真理 |
| 3. 自然尿 | : 和歌山県立医科大学付属病院 | 吉井 輝子 |
| 4. 胸 水 | : 日本赤十字社和歌山医療センター | 阪田 幸範 |
| 5. 子宮頸部 | : 日本赤十字社和歌山医療センター | 真谷 亜衣子 |

(5) 和歌山県細胞検査士会主催 細胞検査士養成講座

後援 和歌山県臨床検査技師会

和歌山臨床細胞学会

第1回 和歌山県細胞検査士会主催 細胞検査士養成講座

日 時 : 2023年5月27日(土) 13:00~17:00

場 所 : 公立那賀病院 2階 病理検査室
(Zoomを使用したハイブリッド開催)

参加者数 : 12名

内 容 : 婦人科、消化器 講師 : 紙谷 知子、楠木 結香

第2回 和歌山県細胞検査士会主催 細胞検査士養成講座

日 時 : 2023年6月4日(日) 13:00~17:00

場 所 : 和歌山労災病院

講 義 : 3階 小会議室 (Zoomを使用したハイブリッド開催)

鏡検実習 : 2階 病理検査室

参加者数 : 12名

内 容 : 呼吸器、体腔液 講師 : 奥村 寿崇、松崎 生笛

第3回 和歌山県細胞検査士会主催 細胞検査士養成講座

日 時 : 2023年7月8日(土) 13:00~17:00

場 所 : 和歌山県立医科大学 2階 病理検査室

(Zoomを使用したハイブリッド開催)

参加者数 : 10名

内 容 : 甲状腺、唾液腺 講師 : 阪田 幸範、永井 宏和

第4回 和歌山県細胞検査士会主催 細胞検査士養成講座

日 時 : 2023年8月27日(土) 13:00~17:00

場 所 : 和歌山労災病院

講 義 : 3階 小会議室 (Zoomを使用したハイブリッド開催)

鏡検実習 : 2階 病理検査室

参加者数 : 8名

内 容 : 乳腺・リンパ節、泌尿器 講師 : 栗山 行央、笠松 功

第5回 和歌山県細胞検査士会主催 細胞検査士養成講座

日 時 : 2023年10月15日(土) 13:00~17:00

場 所 : 和歌山労災病院

3階 小会議室 (Zoomを使用したハイブリッド開催)

参加者数 : 8名

内 容 : 細胞検査士認定試験 1次試験対策

講 師 : 稲垣 充也、田中 真理、真谷 亜衣子

第6回 和歌山県細胞検査士会主催 細胞検査士養成講座

日 時 : 2023年11月12日(日) 13:00~17:00

場 所 : 和歌山労災病院 2階 病理検査室

参加者数 : 14名

内 容 : 細胞検査士認定試験 2次試験対策 Part I

講 師 : 田中 真理、吉井 輝子

第7回 和歌山県細胞検査士会主催 細胞検査士養成講座

日 時 : 2023年11月26日(日) 13:00~17:00

場 所 : 日本赤十字社和歌山医療センター 6階 細胞診鏡検室

参加者数: 11名

内 容 : 細胞検査士認定試験 2次試験対策 Part II

講 師 : 稲垣 充也、真谷 亜衣子

(6) 和歌山県細胞検査士会ホームページ更新

2023年3月 第1回研修会、和歌山市内地区 LOVE49 活動案内掲載

2023年4月~11月 細胞検査士養成講座案内掲載

2023年9月 第2回研修会案内掲載

— 滋賀県臨床細胞学会 —

1, 会員数： 122名 (2024年 3月 31日現在)
(専門医会員 37名、検査士会員 85名、医師会員 0名、技師会員 0名)

2, 事務局：

住所：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学医学部附属病院
病理部内 事務局担当 林 裕司

TEL：077-548-2605 (直通)、FAX：077-548-2605 (直通)

E-Mail shiga.saibou@gmail.com

URL：http://jscshiga.umin.ne.jp/

3, 役員：(任期)

| | | |
|-----|----------|------------------|
| 会長 | 高橋 健太郎 | (日野記念病院 婦人科) |
| 副会長 | 小林 忠男 | (天理大学) |
| 幹事 | 九嶋 亮治 | (滋賀医科大学) |
| 幹事 | 馬場 正道 | (済生会滋賀県病院) |
| 幹事 | 森谷 鈴子 | (滋賀医科大学医学部附属病院) |
| 幹事 | 高橋 顕雅 | (滋賀医科大学医学部附属病院) |
| 幹事 | 太田 諒 | (彦根市立病院) |
| 幹事 | 今村 真治 | (滋賀医科大学医学部附属病院) |
| 幹事 | 富田 圭一 | (彦根市立病院) |
| 幹事 | 広報 宮平 良満 | (淡海医療センター) |
| 幹事 | 渉外 岩井 宗男 | (滋賀医科大学医学部附属病院) |
| 幹事 | 植田 正巳 | (済生会滋賀県病院) |
| 幹事 | 馬野 真次 | (地域医療機能推進機構滋賀病院) |
| 幹事 | 田口 一也 | (市立大津市民病院) |
| 幹事 | 山内 盛正 | (長浜赤十字病院) |
| 幹事 | 宮元 伸篤 | (市立長浜病院) |
| 幹事 | 土肥 誠 | (滋賀県立総合病院) |
| 幹事 | 重野 恭子 | (近江八幡市立総合医療センター) |
| 幹事 | 小栗 大助 | (大津赤十字病院) |
| 幹事 | 会計 中村 美紀 | (大津赤十字病院) |
| 幹事 | 事務局 林 裕司 | (滋賀医科大学医学部附属病院) |

4, 活動報告：(令和5年度)

《《《《 主催事業 》》》》

(1) 第58回滋賀県臨床細胞学会学術集会

日時：令和6年1月27日（土）14:00～17:35

場所：滋賀医科大学 臨床講義室 1

教育講演

座長 高橋健太郎（日野記念病院）

「産婦人科診療における細胞診の役割」

高橋 颯雅 先生（滋賀医科大学医学部附属病院 女性診療科）

特別講演

座長 馬場正道（済生会滋賀県病院）

「甲状腺ベセスダシステム3版と甲状腺細胞診の基本的な見方」

鈴木 彩菜 先生（隈病院 病理診断科）

一般演題

座長 前田賢矢、森口裕紀

演題1

「細胞学的に良悪の鑑別が困難であった、オンコサイトの増殖を主体とする耳下腺腫瘍の一例」

○上林悦子¹⁾、宮部友暉¹⁾、尾本明穂¹⁾、嶋村成美¹⁾、西野俊博¹⁾、植田正己¹⁾、布施慎也²⁾、只木信尚²⁾、塩原正規¹⁾、苗村智¹⁾、馬場正道¹⁾

済生会滋賀県病院 病理診断センター¹⁾、同 耳鼻咽喉科²⁾

演題2

「細胞診でも生検組織診でも腺癌と扁平上皮癌の鑑別が困難であった肺腫瘍の細胞学的考察」

○由藤果住(CT)¹⁾、竹村しづき(MD)²⁾、西村利幸(CT)¹⁾、西海由記美(CT)¹⁾、日野倫子(MD)²⁾、前川真理子(CT)¹⁾、岩根京香(CT)¹⁾、宮平良満(CT)¹⁾

淡海医療センター 検査部・病理部¹⁾、病理診断科・病理部²⁾

演題3

「組織型を推定し得なかった扁平上皮癌の細胞像に関する考察」

○吉田章子(CT)¹⁾、馬野真次(CT)¹⁾、向所賢一(MD)^{1,2)}、竹村しづき(MD)³⁾

JCHO 滋賀病院 検査部¹⁾、滋賀医科大学 医学・看護学教育センター²⁾

社会医療法人誠光会 淡海医療センター 病理部・病理診断科³⁾

演題4

「長期経過のCLL/SLLを経験して」

○宮元伸篤¹⁾、岡本明子¹⁾、西野万由美¹⁾、古賀一也¹⁾、新川由基¹⁾、黒澤学²⁾²⁾

市立長浜病院 中央検査技術科¹⁾、病理診断科²⁾

《《《《 共催事業 》》》》

(1) 令和5年度 子宮頸がん検診従事者講習会

日時：令和6年2月24日(土) 14:00~15:30

場所：ZoomによるLive配信

主催：滋賀県・公益財団法人滋賀県健康づくり財団(滋賀県がん検診精度管理事業事務局)

滋賀県がん検診検討会子宮がん部会

講演 演題：「当院におけるLBC(BD シュアパス)用手法による標本作成の紹介と
LBC 標本を用いたスライドカンファレンス」

講師 山内 盛正 先生(長浜赤十字病院 病理部)

座長 滋賀県がん精度管理事業がん検診検討会 子宮頸がん部会 部会長 高橋
健太郎

(2) 第13回病理技術向上講座・第9回びわ湖細胞病理テュートリアル

日時：令和5年2月22日~3月11日

場所：ZoomによるLive配信

主催：滋賀県・滋賀県立総合病院

— 滋賀県細胞検査士会 —

1. 会員数： 85名(2024年3月31日現在)

2. 事務局：

住所：〒526-8585 滋賀県長浜市宮前町14番7号

長浜赤十字病院 病理部内 山内 盛正

TEL：0749-63-2111(代表)

3. 役員：(任期)

| | | |
|----|-------|------------------|
| 会長 | 山内 盛正 | (長浜赤十字病院) |
| 幹事 | 今村 真治 | (滋賀医科大学医学部附属病院) |
| | 富田 圭一 | (彦根市立病院) |
| | 宮平 良満 | (淡海医療センター) |
| | 岩井 宗男 | (滋賀医科大学医学部附属病院) |
| | 植田 正巳 | (済生会滋賀県病院) |
| | 馬野 真次 | (地域医療機能推進機構滋賀病院) |
| | 田口 一也 | (市立大津市民病院) |
| | 宮元 伸篤 | (市立長浜病院) |
| | 土肥 誠 | (滋賀県立総合病院) |

| | |
|-------|------------------|
| 重野 恭子 | (近江八幡市立総合医療センター) |
| 小栗 大助 | (大津赤十字病院) |
| 中村 美紀 | (大津赤十字病院) |
| 林 裕司 | (滋賀医科大学医学部附属病院) |

4, 活動報告 : (令和 5 年度)

検査士会単独事業は無し

日本臨床細胞学会近畿連合会令和5年度収支決算報告書
(2023.04.01～2024.03.31)

収入－支出概要

| | | |
|----------------|-----------|-----------|
| 前年度(2022)より繰越金 | 2,475,933 | |
| 今年度(2023)の総収入 | 1,759,904 | |
| <hr/> | | |
| 今年度(2023)の総支出 | | 1,732,627 |
| 次年度(2024)へ繰越金 | | 2,503,210 |
| <hr/> | | |
| 合 計 | 4,235,837 | 4,235,837 |

収入－支出明細

収 入

| | | |
|------------|-----------|--|
| 会費(2023年度) | 1,759,000 | |
| 利息 | 14 | |
| 口座開設料 | 10 | |
| 許諾抄録利用料 | 880 | |
| <hr/> | | |
| 合 計 | 1,759,904 | |

支 出

| | | |
|-------|-----------|--|
| 通 信 費 | 0 | |
| 学 会 費 | 1,400,000 | |
| 印 刷 費 | 182,930 | |
| 会誌発行費 | 123,420 | |
| 会 議 費 | 20,000 | |
| 交 通 費 | 0 | |
| 事 務 費 | 1,811 | |
| 支払手数料 | 4,466 | |
| <hr/> | | |
| 合 計 | 1,732,627 | |

日本臨床細胞学会近畿連合会会則

第1章 名称と所在地

第1条 本会は日本臨床細胞学会近畿連合会と称する。

第2条 本会の事務局は大阪市立総合医療センター病理部・病理診断科（大阪市都島区都島本通2-13-22）内に置く。

第2章 目的および事業

第3条 本会は近畿地区における臨床細胞学の発展と普及を図ることを目的とする。

第4条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 臨床細胞学に関する学術集会の開催
2. 日本臨床細胞学会近畿連合会会誌の発行
3. その他、本会の目的達成に必要な事業

第3章 構成

第5条 本会は日本臨床細胞学会地域連携組織である滋賀県臨床細胞学会、京都臨床細胞学会、大阪府臨床細胞学会、兵庫県臨床細胞学会、奈良県臨床細胞学会および和歌山臨床細胞学会の連合によって構成する。

第4章 会員

第6条 本会の会員は、前条の各府県地域連携組織の会員をもって本会の会員とする。

第7条 会員は、本会が主催する集会に関する通知を受け、集会に出席して、業績を発表し発言することができる。

第8条 会員以外で、本会の学術集会に参加するものを当日会員とする。

第5章 理事ならびに評議員

第9条 本会は次の理事を置き、理事会を構成する。

会長1名、副会長2名、監事2名、各府県地域連携組織長、各府県細胞検査士会長のほか、本会の活動・運営に有意義と理事会で推薦され、評議員会で認められた者。

第10条 会長、副会長は理事互選による。

第11条 本会は評議員を置き、評議員会を構成する。評議員の数は各府県の会員数に応じて決定し、各府県地域連携組織長の推薦により、会長がこれを委嘱する。評議員は会長の委嘱により総務、会計、会誌編集、WEB編集などの会務を行う。

第12条 監事は会長が会員の中から委嘱し、会の会計を監査する。

第13条 理事及び評議員会は年1回開催する。評議員会において会務の重要事項を協議し、理事会に

第 14 条 おいてこれを議決する。また、会長は随時理事会または評議員会を召集することができる。
会長は各府県地域連携組織の活動状況を年 1 回日本臨床細胞学会地域連携委員会に報告するものとする。

第 15 条 会長、副会長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

第 6 章 学術集会

第 16 条 本会は毎年 1 回以上学術集会を開催する。

第 17 条 学術集会長は理事会において決定する。

第 7 章 会 計

第 18 条 本会の会計は、各府県地域連携組織よりの分担金および寄付金をもってあてる。

第 19 条 各府県地域連携組織の分担金の配分は、各府県地域連携組織の会員数に比例するものとし、その額は理事会の議による。

第 20 条 本会の会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。各府県地域連携組織長は 3 月 31 日までに、各府県地域連携組織における会員数を事務局に報告し、分担金を納入するものとする。

第 8 章 会則の変更

第 21 条 会則の変更は理事会の議決を経て、評議員会の承認を得なければならない。

付 則

1. 各府県地域連携組織の分担金は当分の間、日本臨床細胞学会会員 1 人につき 1000 円とする。
2. 評議員数は、医師、技師、ともに同数とし、当分の間次の如く決める。滋賀県 2 名、京都府 3 名、大阪府 5 名、兵庫県 4 名、奈良県 2 名、和歌山県 2 名。
3. 監事は原則として、医師 1 名、細胞検査士 1 名をあてる。
4. 理事会ならびに評議員会の案内、学術集会の案内、プログラムの作成及び発送に要する印刷費及び通信費は、日本臨床細胞学会近畿連合会の費用をもって充当し、学術集会の会計は学術集会長が負担するものとする。

本会則は平成 5 年 11 月 28 日より実施する。

平成 7 年 1 月 1 日役員呼称変更

平成 9 年 4 月 1 日事務局移転

平成 10 年 1 月 1 日分担金金額変更

平成 19 年 10 月 7 日会計年度変更

平成 22 年 3 月 20 日副会長数変更

平成 28 年 9 月 25 日一部変更

令和 3 年 10 月 3 日連携組織名称変更

令和 5 年 4 月 1 日評議員数、事務局住所変更

令和 5 年 11 月 28 日理事数、会長副会長選出、会則変更の承認、監事割り当て、一部呼称の変更

日本臨床細胞学会近畿連合会名誉会長、名誉会員、功勞会員推戴規程

名誉会長の推戴基準

第1条 本会会長を通算3期以上就任したもの。

名誉会員の推戴基準

第2条 次の各号のうち、いずれか2つ以上をみたすことを要する。

1. 本会の発展に特に寄与したもの。
2. 本会会長または副会長に就任したもの。
3. 本会の理事・監事に通算3期以上就任したもの。

功勞会員の推戴基準

第3条 次の各号のいずれかに該当することを要する。

1. 本会の発展に功勞のあったもの。
2. 本会の学術集会長または評議員に通算5期以上就任したもの。

付 則

1. 本推戴規程は平成11年1月1日から施行する。
2. 本規程による称号の贈呈は、現役員を除く満65歳以上の会員を対象とし、理事会の議を経て決するものとする。

日本臨床細胞学会近畿連合会会誌投稿規定

1. 資格

原則として投稿者および共著者は日本臨床細胞学会近畿連合会会員とする。

2. 掲載論文

- ① 掲載論文は、依頼原稿、総説、原著、症例報告等からなり、いずれも臨床細胞学の進歩に寄与しうるもので、原著および症例報告は未発表のものに限る。
- ② 論文作成に際しては、プライバシー保護の観点も含め、ヘルシンキ宣言ならびに臨床研究に関する倫理指針が遵守されていること（これらの指針は毎年、日本臨床細胞学会誌1号に記載されているので参考にする）。具体例として下記を参考に、個人が特定できない記載を心がける。
 - a. 患者の匿名化を行う（イニシャルは記載しない。実年齢は記載せず、例えば56歳ならば50歳代と記載する）
 - b. 患者の既往歴、家族歴、職業歴等は、報告症例と関連が薄い場合には記載しない。
 - c. 日付は記載せず、第1病日、10日前、2年後などの記載法とする。
 - d. 医療機関などの施設名は記載しない。
 - e. 顔面写真を提示する場合には眼を隠す。
 - f. 個人を特定できる生検、剖検、画像情報の中に含まれている番号などは削除する。

3. 執筆要項

1) 文章と文体

- ① 用語は和文または英文とする。
- ② 平仮名、常用漢字、現代仮名づかいを用いる。
- ③ 医学用語は日本臨床細胞学会編集の「細胞診用語解説集」に準拠すること。
- ④ 度量衡単位はcm, mm, μm , cm^2 , ml, ℓ , g, mg などCGS単位を用いる。

2) 原稿の書き方

原稿はワープロを用い、A4判縦に横書きし、1行25字で20行を1枚におさめる。上下左右に30mm程度の余白をとる。文字は12ポイントが望ましい。

3) 電子ファイル

以下の電子ファイル形式を推奨する。

- 本文 : Word
図・表 : Excel、Power Point
写真 : 画像 (JPG、TIF)

4) 総説、原著、症例報告の様式

- ① タイトルページ（1枚目）：論文の種別（総説、原著、症例報告など）、表題および英訳表題、著者名、所属。
- ② 2枚目には内容抄録（500字以内）、key words。本文は内容抄録とは別に始める。
- ③ 原著 : 緒言、方法と対象、結果、考察、結論、文献、図・表、写真、写真の説明、の順にする。
症例報告 : 背景、症例、結論、文献、図・表、写真、写真の説明、の順にする。
- ④ 著者名
 - a. 原著 : 10名以内
 - b. 症例報告 : 8名以内
 - c. 総説 : 原則1名
- ⑤ 本文および枚数制限
 - a. 原著・総説
本文、文献を含め10,000字（A4判20頁）以内。

図・表（写真を含まず）は、10枚以内。
写真の枚数に制限はないが、必要最小限の枚数とする。

b. 症例報告

本文、文献を含め6,000字（A4判12頁）以内。

図・表（写真を含まず）は5枚以内。

写真の枚数に制限はないが、必要最小限の枚数とする。

⑥ 文献

a. 引用は主要のものにとどめる。

b. 原著 : 20編以内

c. 症例報告 : 10編以内

d. 総説 : 特に編数の制限を定めない

e. 引用順に並べ、本文の中に肩付き番号を付す。

【雑誌の場合】

著者名は3名を表記し、それを越える場合はその後を“・ほか”、“et al”とする。表題.
雑誌名 発行年(西暦). ; 巻 : 頁~頁.

【単行本の場合】

著者名. 表題. 発行地 : 発行所 ; 発行年 (西暦)

尚、引用は単行本の一部である場合には表題の次に編者名、単行本の表題を記し、発行年.頁~頁.

f. 誌名の略記は医学中央雑誌刊行会、英文文献は Index Medicus に準ずる。

⑦ 図・表・写真

a. 図・表はそれぞれ番号をつけ簡単な説明を付記する。

b. 本文中に挿入すべき位置を明示する。

c. 顕微鏡写真には倍率（対物レンズ倍率）を付ける。

4. 投稿形式

① 原則として電子投稿とする。

② 投稿の際には、以下のアドレスへファイルを添付し送信する。

e-mail kinkirengo@gmail.com

5. 論文の査読

投稿論文は編集委員会での審査により採否を決定し、その結果を筆頭著者に通知する。審査にあたっては編集委員による査読制をとる。

6. 掲載料

無料を原則とする。

7. 本規定の改正

投稿規定は改正することがある。

(令和5年4月)

日本臨床細胞学会近畿連合会

事務局 大阪市立総合医療センター病理部・病理診断科

住 所 〒534-0021 大阪市都島区都島本通 2-13-2

e-mail kinkirengo@gmail.com

編集後記

令和 6 年能登半島地震の爪痕が残る中、宮崎県沖で地震が発生し、その後南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が気象庁から発表されました。いつかは来ると言われ続けていただけに、やっぱり来るのかと実感された方も多いと思います。また、世界ではパリオリンピック・パラリンピックが開催され、選手たちの動向に一喜一憂された方も多かったではないでしょうか。そんなおり、今年度も第 32 号日本臨床細胞学会近畿連合会会誌が無事発刊できました。これも、執筆投稿していただいた先生方、査読をしていただいた編集委員会の先生方、事務局の先生方のおかげと感謝しております。

今回は昨年度、第 48 回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会でご講演いただきました先生に、執筆・投稿していただきました。特に口腔細胞診は、今後伸びてゆく分野の一つであろうと思われまし、目にする機会も増えて行くと思われまし。ただそこで、あいまいな判定を繰り返すと、臨床側から信頼性を失いかねないという危うさももちあわせていると思われまし。今回、執筆していただいた投稿文を、繰り返し読み解くことは、会員の先生方にとって口腔細胞診を理解していく、有用なツールではないかと思われまし。今回の学会誌が、先生方の日々の仕事のお役に立つことができれば、幸いに思われまし。

また、近畿連合会会誌では掲載論文を広く募集しております。First-try の方も歓迎しておりますのでよろしくお願いいたします。

編集委員長 三村 明弘